

(様式第 10)

千大財第 300 号  
平成 27 年 9 月 28 日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人千葉大学長  
徳久剛史 (印)

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 2 6 3 - 8 5 2 2 千葉市稲毛区弥生町 1 - 3 3
氏 名	徳久剛史

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人千葉大学
------------

3 所在の場所

〒 2 6 3 - 8 5 2 2 千葉市稲毛区弥生町 1 - 3 3	電話(0 4 3) 2 5 1 - 1 1 1 1
-------------------------------------	---------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 アレルギー科 3 心療内科 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 形成外科	2 呼吸器外科	3 心臓血管外科	4 小児外科	6	7	
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	
7						
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 リハビリテーション科	3 循環器科	4 病理診断科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45 床	5 床	床	床	785 床	835 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年 10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	251 人	460 人	580.0人	看 護 補 助 者	90 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	8 人	30 人	30.1 人	理 学 療 法 士	25 人	臨床検査技師	77 人
薬 剤 師	55 人	13 人	64.4 人	作 業 療 法 士	11 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	6 人	そ の 他	0 人
助 産 師	41 人	0 人	41.0 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	1 人
看 護 師	870 人	42 人	905.1人	臨 床 工 学 士	15 人	医療社会事業従事者	11 人
准 看 護 師	1 人	2 人	3.0 人	栄 養 士	2 人	その他の技術員	76 人
歯科衛生士	1 人	3 人	3.7 人	歯 科 技 工 士	0 人	事 務 職 員	335 人
管理栄養士	5 人	7 人	12.0 人	診 療 放 射 線 技 師	48 人	そ の 他 の 職 員	31 人

- (注)1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	23 人	眼 科 専 門 医	14 人
外 科 専 門 医	20 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	16 人
精 神 科 専 門 医	13 人	放 射 線 科 専 門 医	12 人
小 児 科 専 門 医	16 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12 人
皮 膚 科 専 門 医	6 人	整 形 外 科 専 門 医	29 人
泌 尿 器 科 専 門 医	11 人	麻 酔 科 専 門 医	1 人
産 婦 人 科 専 門 医	22 人	救 急 科 専 門 医	12 人
		合 計	207 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	746 人	13 人	759 人
1日当たり平均外来患者数	2,018 人	76 人	2,094 人
1日当たり平均調剤数		入院：850 剤	外来：40 剤
必要医師数			195 人
必要歯科医師数			12 人
必要薬剤師数			36 人
必要(准)看護師数			450 人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	374.75m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 184 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 3 台		病床数	14 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 85.71 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	403 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酸素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷庫(ディープフリーザー)			
細菌検査室	80 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット			
病理検査室	137 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機			
病理解剖室	74 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、切出台、固定槽、撮影装置			
研究室	718 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計			
講義室	736.01m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	4 室	収容定員	504 人
図書室	147 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	5 室	蔵書数	5,050 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 年 月 日～平成 年 月 日	
紹介率	88.3 %	逆紹介率	67.0 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,247 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,701 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,468 人	
	D: 初診の患者の数	23,447 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	330人	・膿疱性乾癬	33人
・多発性硬化症	377人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・重症筋無力症	464人	・原発性胆汁性肝硬変	370人
・全身性エリテマトーデス	1281人	・重症急性膵炎	22人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	65人
・再生不良性貧血	149人	・混合性結合組織病	219人
・サルコイドーシス	870人	・原発性免疫不全症候群	29人
・筋萎縮性側索硬化症	68人	・特発性間質性肺炎	53人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	719人	・網膜色素変性症	738人
・特発性血小板減少性紫斑病	333人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	82人	・肺動脈性肺高血圧症	208人
・潰瘍性大腸炎	723人	・神経線維腫症	72人
・大動脈炎症候群	80人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	42人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	9人
・天疱瘡	189人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	136人
・脊髄小脳変性症	220人	・ライソゾーム病	11人
・クローン病	314人	・副腎白質ジストロフィー	5人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	16人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	269人
・悪性関節リウマチ	101人	・脊髄性筋委縮症	65人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	658人	・球脊髄性筋委縮症	30人
・アミロイドーシス	97人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	114人
・後縦靭帯骨化症	464人	・肥大型心筋症	202人
・ハンチントン病	12人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	58人	・ミトコンドリア病	11人
・ウェゲナー肉芽腫症	142人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	9人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	190人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	49人	・黄色靭帯骨化症	73人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	866人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診療料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院 7対1入院基本料 一般病棟	・退院調整加算
・特定機能病院 13対1入院基本料 精神病棟	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・臨床研修病院入院診療加算(歯科診療以外)	・救急搬送患者地域連携受入加算
・臨床研修病院入院診療加算(歯科診療に限る)	・総合評価加算
・救急医療管理加算	・データ提出加算2(イ)
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・特定集中治療室管理料 小児加算
・診療録管理体制加算1	・小児入院医療管理料2
・25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上)	・小児入院医療管理料 プレイルーム加算
・看護職員夜間配置加算	
・看護補助加算2 精神病棟	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・感染防止対策地域連携加算	
・患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

NO.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(I)
・糖尿病合併症管理料	・検体検査管理加算(IV)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料2	・植込型心電図検査
・がん患者指導管理料3	・時間内歩行試験
・外来緩和ケア管理料	・胎児心エコー法
・移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合	・ヘッドアップティルト試験
・移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・夜間休日救急搬送医学管理料	・神経学的検査
・外来リハビリテーション診療料	・補聴器適合検査
・外来放射線照射診療料	・ロービジョン検査判断料
・ニコチン依存症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・地域連携診療計画管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携計画策定料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携管理料	・センチネルリンパ節生検1, 2
・認知症専門診断管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1
・薬剤管理指導料	・遠隔画像診断
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・歯科治療総合医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・持続血糖測定器加算	・冠動脈CT撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・大腸CT撮影加算
・HPV核酸検出	・心臓MRI撮影加算

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

NO.2

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・骨移植術(軟骨移植を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)
・外来化学療法加算1	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び 脳刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
・運動器リハビリテーション料(I)	・網膜再建術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・心大血管疾患リハビリテーション料、 脳血管疾患等リハビリテーション料、 運動器リハビリテーション料、 呼吸器リハビリテーション料の初期加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
・がん患者リハビリテーション料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、 乳がんセンチネルリンパ節加算2
・認知療法・認知行動療法1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・認知療法・認知行動療法2	・同種死体肺移植術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)	・生体部分肺移植術
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈形成術
・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) (高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・経皮的な中隔心筋焼灼術
・透析液水質確保加算2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術
・一酸化窒素吸入療法	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び 経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・CAD/CAM冠	・両心室ペースメーカー移植術及び 両心室ペースメーカー交換術
	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
<b>以下、手術通則4</b>	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・補助人工心臓
・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

NO.3

施設基準の種類	施設基準の種類
・経皮的動脈遮断術	・黄斑下手術等
・ダメージコントロール手術	・鼓室形成手術等
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・肺悪性腫瘍手術等
・体外衝撃波胆石破碎術	・経皮的カテーテル心筋焼灼術
・腹腔鏡下肝切除術	・靭帯断裂形成手術等
・生体部分肝移植術	・水頭症手術等
・同種死体肝移植術	・鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・尿道形成手術等
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・角膜移植術
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・肝切除術等
・同種死体腎移植術	・子宮附属器悪性腫瘍手術等
・生体腎移植術	・上顎骨形成術等
・膀胱水圧拡張術	・上顎骨悪性腫瘍手術等
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)
・人工尿道括約筋植込・置換術	・母指化手術等
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・内反足手術等
・手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・食道切除再建術等
・胃瘻造設術	・同種腎移植術等
・輸血管材料1	・胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術 (通則4に掲げる手術を除く)
・貯血式自己血輸血管管理体加算	・ペースメーカー移植術
・自己生体組織接着剤作成術	・ペースメーカー交換術
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・経皮的冠動脈形成術
・内視鏡手術用支援機器加算	・経皮的冠動脈粥腫切除術
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・経皮的冠動脈ステント留置術
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・人工関節置換術
<b>以下、手術通則5.6</b>	・乳児外科対象手術
・頭蓋内腫瘍摘出術等	・冠動脈及び大動脈バイパス移植術並びに 体外循環を要する手術





## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
カテニンを介したカドヘリン複合体ならびにWnt経路の制御による癌転移抑制剤の開発	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	¥20,410,000	補	文部科学省
KIF遺伝子群のタキサン系抗癌剤耐性に果たす役割の解明と耐性克服治療法の開発	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	¥1,560,000	補	文部科学省
転写因子群導入による脂肪由来間葉系幹細胞の唾液腺分化誘導法の開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	¥1,820,000	補	文部科学省
口腔癌におけるlong non coding RNAの役割と臨床的意義の検討	椎葉 正史	歯科・顎・口腔外科	¥6,240,000	補	文部科学省
CD82によるWnt経路・細胞外基質の制御機構解明と癌転移抑制薬の開発	椎葉 正史	歯科・顎・口腔外科	¥1,560,000	補	文部科学省
脂肪由来幹細胞へのMyoD family 遺伝子導入による筋の再生	坂本 洋右	歯科・顎・口腔外科	¥1,560,000	補	文部科学省
唾液腺細胞の長期安定培養法を用いた唾液腺機能再生療法の開発	笠松 厚志	歯科・顎・口腔外科	¥1,560,000	補	文部科学省
細胞接着装置の産生量減少による癌転移機構の解明と制御薬の検索・同定	肥後 盛洋	歯科・顎・口腔外科	¥1,690,000	補	文部科学省
デロンを用いたS-1術前補助化学療法の新規効果予測法の開発	中嶋 大	歯科・顎・口腔外科	¥1,430,000	補	文部科学省
放射線性唾液腺萎縮に対する自己唾液腺細胞移植を用いた機能再生療法の基盤開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	¥4,000,000	補	文部科学省
歯学分野にかかる学術研究動向に関する調査	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	¥1,690,000	補	日本学術振興会
SO-1105 第Ⅲ相臨床試験	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	¥80,870	補	そーせい
高精度統合型救急医療情報通信システムの開発プロジェクト	織田成人	救急科・集中治療部	¥500,000	補	文部科学省
多発性骨髄腫における新規治療標的としてのヒストンメチル化異常の解析	三村尚也	輸血・細胞療法部	¥2,900,000	補	日本学術振興会
多発性骨髄腫における新規治療標的としてのヒストンメチル化異常の解析	三村尚也	輸血・細胞療法部	¥3,000,000	補	公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団
多発性骨髄腫に対するEZH2阻害剤とプロテアソーム阻害剤との併用療法	三村尚也	輸血・細胞療法部	¥1,000,000	補	公益財団法人 安田記念医学財団
多発性骨髄腫における選択的Akt阻害剤とプロテアソーム阻害剤との新規併用療法 ～小胞体ストレスからのアプローチ	三村尚也	輸血・細胞療法部	¥500,000	補	加納賞研究助成 (日本骨髄腫学会)
ICG-Liposomeを用いた脳腫瘍の新規免疫療法	岩立康男	脳神経外科学	¥1,690,000	補	日本学術振興会
基盤研究(B) 去勢抵抗性前立腺癌における機能性RNAネットワークの解明と革新的診断治療 シーズ	市川智彦	泌尿器科	¥4,300,000	補	日本学術振興会
3次元画像を用いた尿流動態可視化とメカニズムの解析	仲村和芳	泌尿器科	¥500,000	補	公益財団法人 内視鏡医学研究 振興財団
治療抵抗性前立腺癌患者の剖検検体を用いた全ゲノム機能性RNAネットワークの 解析	五島悠介	泌尿器科	¥1,000,000	補	公益財団法人 双葉電子記念財団
軸索興奮性測定・脳機能画像を用いた神経障害性疼痛の客観的総合評価システム の確立 療の確立	桑原 聡	神経内科	¥2,730,000	補	日本学術振興会
糖尿病性神経障害による疼痛の効率的治療戦略の構築	三澤園子	神経内科	¥780,000	補	日本学術振興会
プロテアソーム阻害薬誘発性末梢神経障害の病態解明と神経保護療法の開発	関口 縁	神経内科	¥2,080,000	補	日本学術振興会
SEREX/CEREX法によるMS患者血清/髄液中、新規自己抗原の検索	武藤真弓	神経内科	¥1,040,000	補	日本学術振興会
タウオパチーにおけるタウ蛋白と脳機能の神経画像基盤研究	平野成樹	神経内科	¥2,860,000	補	日本学術振興会
視床下核脳深部刺激療法の高位排尿中枢への作用メカニズムの解明	山本達也	神経内科	¥3,510,000	補	日本学術振興会
FTYの整流性K電流抑制・過分極作用を用いた筋萎縮性側索硬化症の新規治療法 の開発	澁谷和幹	神経内科	¥1,820,000	補	日本学術振興会
Crow-Fukase症候群に対するサリドマイドの有効性を検討するためのプラセボ対照 二重盲検	桑原 聡	神経内科	¥93,503,000	補	日本医師会
治験の実施に関する研究【サリドマイド】	桑原 聡	神経内科	¥2,000,000	補	日本医師会

ギラン・バレー症候群に対するエクシズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	桑原 聡	神経内科	¥15,665,000	委	厚生労働省
クロー・ファセセ候群の全国調査と症例登録システム構築	桑原 聡	神経内科	¥1,600,000	補	厚生労働省
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	桑原 聡	神経内科	¥950,000	補	厚生労働省
運動失調班の医療基盤に関する調査研究	桑原 聡	神経内科	¥1,000,000	補	厚生労働省
アトピー関連脳脊髄・末梢神経障害の病態解明と画期的治療法の開発	桑原 聡	神経内科	¥750,000	補	厚生労働省
多系統萎縮症の治療法開発研究	桑原 聡	神経内科	¥700,000	委	厚生労働省
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	桑原 聡	神経内科	¥500,000	委	厚生労働省
難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	桑原 聡	神経内科	¥700,000	委	厚生労働省
睡眠時呼吸障害患者の適切な周術期気道管理・呼吸管理に関する研究	磯野 史朗	麻酔科	¥700,000	補	文科研
周術期における喉頭機能不全	石川 輝彦	麻酔科	¥500,000	補	文科研
睡眠時無呼吸患者の術前24時間血圧変動パターンと術後心機能	岡崎 純子	麻酔科	¥1,600,000	補	文科研
呼吸困難の治療法と評価法に関する研究	八代 英子	麻酔科	¥600,000	補	文科研
小胞体化学シヤペロンによる吸入麻酔薬の神経毒性の制御	小見田 真理	麻酔科	¥1,100,000	補	文科研
顎顔面形態異常を合併する患者の周術期管理	山村 彩	麻酔科	¥500,000	補	文科研
マスク人工呼吸中の呼気時流量制限のメカニズム研究	奥山 めぐみ	麻酔科	¥1,500,000	補	文科研
放射線被曝に由来するDNA過酸化物質・染色体の解析と抗酸化物質による予防法の開発	宇野 隆	放射線科	¥1,300,000	補	文部科学省
子宮頸癌腔内照射における患者の苦痛を軽減し本邦の現状に即した麻酔法の開発と普及	根本未歩	放射線科	¥780,000	補	文部科学省
高精度放射線治療を用いた子宮頸癌根治的放射線治療の至適線量スケジュールの開発	宇野 隆	放射線科	¥65,000	補	文部科学省
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	宇野 隆	放射線科	¥700,000	委	国立がん研究センター
質の高い放射線治療の普及と均てん化のための基盤研究	宇野 隆	放射線科	¥500,000	委	国立がん研究センター
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB) の運用と他がん登録との連携	宇野 隆	放射線科	¥200,000	補	厚生労働省
重粒子線がん治療臨床研究 上部消化器腫瘍臨床研究班	宇野 隆	放射線科	放医研による一括管理	補	放射線医学総合研究所
重粒子線がん治療臨床研究 婦人科腫瘍臨床研究班	宇野 隆	放射線科	放医研による一括管理	補	放射線医学総合研究所
診断・治療のための穿刺支援ロボットシステムの開発	研究分担者 吉野 一郎	呼吸器外科	¥1,000,000	補	経産省
呼吸器悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	分担研究者 吉野 一郎	呼吸器外科	¥250,000	委	厚生労働省
びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	分担研究者 吉野 一郎	呼吸器外科	¥200,000	委	厚生労働省
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法法の標準治療確立のための研究	分担研究者 吉野 一郎	呼吸器外科	¥1,000,000	委	厚生労働省
分化能を有するII型肺胞上皮細胞による障害肺の改善-肺移植の臨床応用に向けて	研究代表者 吉田 成利	呼吸器外科	¥1,560,000	補	文部科学省
特発性肺腺維症の原因としての抗V型コラーゲン自己免疫および胃食道逆流症の関与	研究代表者 岩田 剛和	呼吸器外科	¥1,820,000	補	文部科学省
肺移植後の慢性閉塞性細気管支炎の病態解明及び治療法の開発	研究代表者 鈴木 秀海	呼吸器外科	¥1,170,000	補	文部科学省



気管支鏡検体によるマルチプレックスバイオマーカー診断・抗がん剤感受性判断法の開発	研究代表者 中島 崇裕	呼吸器外科	¥1,820,000	補	文部科学省
癌腫原特異的T細胞受容体遺伝子を用いた新たなNKT細胞養子免疫治療の構築	研究代表者 長門 芳	呼吸器外科	¥1,430,000	補	文部科学省
抗体療法併用NKT細胞療法による新規複合免疫療法の開発研究	研究代表者 鎌田 稔子	呼吸器外科	¥1,950,000	補	文部科学省
傷害肺におけるiPS細胞を用いた肺再生療法の開発研究	研究代表者 山本 高義	呼吸器外科	¥1,430,000	補	文部科学省
遺伝子改変動物を用いた肺再生・成長の解析	研究代表者 尹 貴正	呼吸器外科	¥1,300,000	補	文部科学省
肺癌患者に対する周術期口腔ケアによる術後肺炎予防効果についての前向き比較臨床試験	研究代表者 尹 貴正	呼吸器外科	¥300,000	補	ちば県民保健予防財団
網膜脈絡膜・視神経委縮症に関する調査研究	山本 修一	眼科	¥500,000	委	厚生労働省
眼内血管新生に対するVEGF-A165b	馬場 隆之	眼科	¥552,147	委	文部科学省
糖尿病網膜症における神経軸索変性の神経軸	忍足 俊幸	眼科	¥1,707,893	委	文部科学省
次世代シーケンサーを用いたわが国の網膜	山本 修一	眼科	¥50,000	委	文部科学省
ミューラー細胞におけるWRN遺伝子を介したアポトシス制御機構	北橋 正康	眼科	¥1,400,000	委	文部科学省
リウマチ疾患においてsynbioticsが腸管/全身性免疫と脾臓免疫に及ぼす影響	竹田真理子	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
授乳時期によるラモトリギンの乳汁移行変動と乳児への影響	土屋晃三	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
血管平滑筋細胞の3次元培養系を用いた動脈硬化治療薬のスクリーニング	内田雅士	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
クロザピン使用患者における血球減少要因の検討	築地茉莉子	薬剤部	¥500,000	補	文部科学省
小児におけるピンクリスチン母集団パラメータの算出	石川雅之	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
多剤耐性緑膿菌感染症患者に対する抗菌薬併用療法における投与設計方法の確立	山崎伸吾	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
多剤耐性緑膿菌感染症患者に対する抗菌薬併用療法における投与設計方法の確立	鈴木達也	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
腎機能障害リスク因子をもつ患者におけるアミノグリコシド系薬剤の適正使用	金子裕美	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
動脈硬化症発症関連リポタンパクであるアポB100の測定系の開発と臨床応用	渡辺健太	薬剤部	¥400,000	補	文部科学省
院内製剤レボチロキシンナトリウム坐剤の新規製剤の開発と薬物動態の検討	増田和司	薬剤部	¥600,000	補	文部科学省
リウマチ疾患モデルマウスにおいてsynbiotics投与が腸管免疫・腸管組織および全身性免疫に及ぼす影響	竹田真理子	薬剤部	¥1,500,000	補	公益財団法人 ヤクルト・バイオサイエンス 研究財団
蔓状血管腫に対するチモロールゲルの製剤学的検討とその有用性	高塚博一	薬剤部	¥300,000	補	公益財団法人 猪之鼻奨学会助成金
専門的医療の普及の方策及び資質向上策を含めた医療観察法の効果的な運用に関する研究	伊豫雅臣 (研究代表者)	精神神経科	¥2,200,000	補	厚生労働省
専門的医療の普及の方策及び資質向上策を含めた医療観察法の効果的な運用に関する研究	椎名明大 (研究分担者)	こどものこころ診療部	¥600,000	補	厚生労働省
向精神薬の処方や対策に関する実態調査と外部評価システム(臨床評価)	伊豫雅臣 (研究分担者)	精神医学	代表者一括計上	補	厚生労働省
向精神薬の処方や対策に関する実態調査と外部評価システム(臨床評価)	金原信久 (研究分担者)	千葉大学社会精神 保健教育研究セン ター	代表者一括計上	補	厚生労働省
自閉症スペクトラム障害に対する抑肝散の有用性の科学的知見の創出に関する研究	伊豫雅臣 (研究分担者)	精神医学	代表者一括計上	補	厚生労働省
感覚ゲート機構不全に基づいた精神疾患の新規病態解析研究	橋本 佐 (研究代表者)	精神医学	¥1,400,000	補	日本学術振興会
上皮間葉移行(EMT)修飾による肺癌化学療	滝口裕一	先端化学療法学	¥4,940,000	補	文部科学省

肺神経内分泌癌におけるHedgehog 経路の治	岩澤俊一郎	臨床腫瘍部	¥3,770,000	補	文部科学省
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	横手幸太郎	代謝内科	¥12,500,000	補	厚生科研
抗菌活性・創修復作用を有する新規ペプチドを用いた遺伝的早老症患者の難治性潰瘍治療薬の開発	中神啓徳(横手幸太郎)	代謝内科	¥1,000,000	補	厚生科研
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究	曾根博仁(横手幸太郎)	代謝内科	¥500,000	補	厚生科研
被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究	大島伸一(横手幸太郎)	代謝内科	¥3,000,000	補	厚生科研
患者データベースに基づく糖尿病の新規合併症マーカーの探索と均てん化に関する研究-合併症予防と受診中断抑止の視点から	野田光彦(横手幸太郎)	代謝内科	¥450,000	補	厚生科研
特定健診・保健指導におけるメタボリックシンドロームの診断・管理のエビダンス創出に関する横断・縦断研究	門脇孝(横手幸太郎)	代謝内科	¥400,000	補	厚生科研
老化遺伝子の統合的解析による加齢関連疾患の病態解明	横手幸太郎	代謝内科	¥5,500,000	補	日本学術振興会
腸管免疫におけるセマフォリンシグナルを標的とした生活習慣病発症機序の解明	横手幸太郎	代謝内科	¥2,100,000	補	日本学術振興会
セマフォリン3g遺伝子解析による生活習慣病の機序解明と新しいバイオマーカーの開発	竹本稔	代謝内科	¥900,000	補	日本学術振興会
セマフォリン3gの解析を通じた心腎連関の機序解明	小林一貴	代謝内科	¥1,400,000	補	日本学術振興会
セマフォリン3gによる膵α細胞の恒常性維持機構解明と糖尿病治療への応用	河村治清	代謝内科	¥1,400,000	補	日本学術振興会
ポドサイトの転写因子Tcf21の機能解析を通じた慢性腎臓病の機序解明	前澤善朗	代謝内科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
肥満・NASHをターゲットにした癌抑制遺伝子p53の役割と新たな創薬標的探索	田中知明	代謝内科	¥910,000	補	日本学術振興会
AKAP13を用いた骨代謝の新たな制御機構の解明	小出尚史	代謝内科	¥1,500,000	補	日本学術振興会
肥満・糖尿病と発癌を結びつけるグルタミン代謝ネットワークの基盤的研究	鈴木佐和子	代謝内科	¥1,600,000	補	日本学術振興会
脂肪組織幹細胞由来心筋細胞シート移植-大動物心不全モデルによる前臨床試験-	松宮 護郎	心臓血管外科	¥14,400,000	補	日本学術振興会
慢性血栓塞栓症肺高血圧症における血栓器質化機序解明と新しい画像診断法の確立	石田 敬一	心臓血管外科	¥3,900,000	補	日本学術振興会
インターロイキン-11の臨床外科領域への応用-大動物モデルによる前臨床試験	黄野 皓木	心臓血管外科	¥3,800,000	補	日本学術振興会
IL-11による虚血再灌流障害制御と外科的心筋保護法への応用	松宮 護郎	心臓血管外科	¥2,000,000	補	一般財団法人藤井節郎記念 大阪基礎医学研究奨励会
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	吉田英生(分担)	小児外科	¥400,000	補	厚生労働省
ヒトCD133陽性神経芽腫幹細胞を標的とした新規治療法の開発	吉田英生	小児外科	¥1,400,000	補	文部科学省
胆道閉鎖症における制御性T細胞の機能解析	齋藤 武	小児外科	¥800,000	補	文部科学省
直腸肛門奇形モデルマウスを使用した肛門形成シグナルの探究	中田光政	小児外科	¥900,000	補	文部科学省
神経芽腫における抗体を併用した新たなNKT細胞免疫治療の開発研究	三瀬直子	小児外科	¥1,100,000	補	文部科学省
腫瘍スフェア形成機構の網羅的・遺伝的解析によるがん幹細胞特異的療法の開発	吉田英生(分担)	小児外科	¥150,000	補	文部科学省
網羅的ゲノム・エピゲノム解析による神経芽腫再発・治療抵抗性獲得のメカニズムの解明	吉田英生(分担)	小児外科	¥100,000	補	文部科学省
プロモターゼのアンドロゲン降下作用に着目した新たな排卵誘発法の開発	生水真紀夫	生殖医学	¥9,400,000	補	日本学術振興会
PCOS治療におけるメホルミンの弱点(内膜抑制作用)克服に向けた研究	生水真紀夫	生殖医学	¥1,400,000	補	日本学術振興会
多職種からなる周産期急変対応チームの育成システム構築に関する研究	長田久夫	生殖医学	¥1,200,000	補	日本学術振興会

メトホルミンによる子宮内膜癌の発癌予防に関する研究	三橋 暁	生殖医学	¥900,000	補	日本学術振興会
子宮筋腫におけるミトコンドリア機能とエネルギー代謝経路に関する研究	石川 博士	生殖医学	¥1,800,000	補	日本学術振興会
ADARIによる子宮内膜症細胞の癌化メカニズムの解析	鶴岡 信栄	産科婦人科	¥1,600,000	補	日本学術振興会
CISH法による絨毛分子病理診断法の確立	加来 博志	産科婦人科	¥1,800,000	補	日本学術振興会
気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究	下条 直樹	小児病態学	¥1,000,000	補	厚生労働省
アレルギー疾患の全年齢にわたる継続的疫学調査体制の確立とそれによるアレルギーマーカーの発症・悪化要因の解析に関する研究	下条 直樹	小児病態学	¥450,000	補	厚生労働省
母親及び子供のβ-カロテン摂取とアレルギー疾患発症との関係の解明	下条 直樹	小児病態学	¥1,818,180	委	(株)カゴメ
小児期の食物アレルギーの新しい診断法・管理法の確立と治療法の開発に関する研究	下条 直樹	小児病態学	¥1,000,000	委	三重病院
新生児からの皮膚及び腸管環境の整備に基づく吸入アレルゲン感作・ぜん息発症の予防に関する研究	下条 直樹	小児病態学	¥5,400,000	委	環境再生保全機構
コホート研究からの小児アレルギー疾患の発症関連マーカーの同定	下条 直樹	小児病態学	¥1,500,000	委	CREST
健康者・アレルギー患者末梢血由来樹状細胞	下条 直樹	小児病態学	¥909,090	委	キッコーマン
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究－試薬からの希少疾病治療薬開発の試み－	藤井 克則	小児病態学	¥500,000	補	厚生労働省
ヘッジホッグシグナリングにおける分子調節機構の解明	藤井 克則	小児病態学	¥1,339,230	補	文部科学省
分泌型microRNAを指標とした小児気管支喘息エンドタイプの解明	井上 祐三朗	小児病態学	¥2,500,000	補	文科省(学内)
免疫療法による花粉症治療の新しい展開を目指した研究	岡本 美孝(代表) 花澤 豊行(分担) 櫻井 大樹(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥23,920,000	委	厚生労働委託研究費
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	岡本 美孝(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥500,000	委	厚生労働委託研究費
鼻粘膜を介したNKT細胞活性化による頭頸部癌に対するアジュバント療法の開発	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥8,000,000	補	文部科学省
頭頸部扁平上皮癌におけるマイクロRNAを基としたセツキシマブ効果予測因子の探索	花澤 豊行(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,400,000	補	文部科学省
頭頸部癌による腫瘍免疫抑制機構の解明と新規治療法の開発	櫻井 大樹(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,200,000	補	文部科学省
骨形成蛋白(rhBMP-2)を用いた側頭骨の研究	杉本 晃(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥800,000	補	文部科学省
機能性RNA分子ネットワーク解析による下咽頭癌の新規治療戦略の確立	吉川 直子(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,500,000	補	文部科学省
頭頸部癌患者における頭部脂肪関連リンパ球集簇の網羅的ゲノム機能解析	茶菌 英明(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,400,000	補	文部科学省
唾液腺癌に対するキメラ抗原受容体導入リンパ球を用いた養子免疫療法	國井 直樹(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,300,000	補	文部科学省
NKT細胞免疫系を用いたアレルギー性鼻炎に対する新規治療法の開発	米倉 修二(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,400,000	補	文部科学省
蝸牛外有毛細胞シグナル伝達機構の解明	木谷 令(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥900,000	補	文部科学省
Lactobacillus planatum YIT0132における免疫調整作用の検討	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥2,793,455	委	共同研究(ヤクルト)
頭頸部癌患者に対するiNKT細胞療法、及び免疫療法の効果に影響する免疫応答の網羅的解析	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,000,000	委	共同研究(理研)
ダニ抗原特異的舌下免疫療法製剤の開発	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥800,000	委	共同研究(ニッポー)
花粉症に関する環境情報と花粉症症状との関連についての検証	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥606,486	委	共同研究(ウェザー)
ダニ抗原特異的舌下免疫療法製剤の開発	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥8,000,000	委	共同研究(塩野義製薬)

スギ花粉症における免疫療法の効果を予測するための生体由来因子の測定	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥3,240,000	委	共同研究(鳥居製薬)
T0-206第II/III相臨床試験-スギ花粉症患者を対象とした有効性及び安全性の検討	岡本 美孝(代表)	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	¥1,490,400	委	共同研究(鳥居製薬)
「気道上皮免疫バリア」という観点からの喘息の病態解明	中島 裕史	アレルギー・臨床免疫学	¥5,100,000	補	文部科学省
我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	¥200,000	補	厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究班	古田 俊介	アレルギー・臨床免疫学	¥300,000	補	厚生労働省
細胞内亜鉛制御による関節リウマチの新規治療戦略の確立	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	¥1,500,000	補	文部科学省
重症喘息におけるIL-23産生樹状細胞誘導機構の解明	玉地 智宏	アレルギー・臨床免疫学	¥600,000	補	文部科学省
C型レクチンによる気管支喘息発症抑制機構の解明	廣瀬 晃一	アレルギー・臨床免疫学	¥1,500,000	補	文部科学省
濾胞ヘルパーT細胞の分化及び関節リウマチ発症におけるBCL-3の役割の解明	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	¥1,100,000	補	文部科学省
Soxファミリー分子による自己免疫疾患制御機構に関する研究	須藤 明	アレルギー・臨床免疫学	¥1,300,000	補	文部科学省
アレルギー性気道炎症におけるFOXP3陽性制御性自然免疫細胞の役割の解明	高取 宏昌	アレルギー・膠原病内科	¥1,500,000	補	文部科学省
喘息の気道上皮細胞におけるステロイド抵抗性獲得機構に関する研究	横田 雅也	アレルギー・膠原病内科	¥1,000,000	補	文部科学省
関節リウマチにおけるARID5の役割の解明	古田 俊介	アレルギー・臨床免疫学	¥1,500,000	補	文部科学省
アレルギー性気道炎症における蛋白シトルリン化の病的意義の解明	前澤 裕子	アレルギー・臨床免疫学	¥1,100,000	補	文部科学省
基盤研究C「重症感染症を惹起するインフルエンザ菌無炎毒株の社会的重要性とその病原因子解析」	石和田 稔彦	感染症管理治療部	¥1,000,000	補	日本学術振興会
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関するk祖的臨床的研究」	石和田 稔彦	感染症管理治療部	¥500,000	補	日本学術振興会
医薬品・医用機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「ワクチンの有用性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究」	石和田 稔彦	感染症管理治療部	¥300,000	補	日本学術振興会
心筋前駆細胞移植床による新生心筋の起源と分化増殖因子の網羅的解析	永井 敏雄	循環器内科学	¥4,000,000	補	日本学術振興会
遺伝子導入血小板を用いた新規血管再生治療の開発	館野馨	循環器内科	¥1,251,756	補	日本学術振興会
骨髄微小環境と形質細胞の相互作用に基づいたPOEMS症候群の発症機構の解析	中世古知昭	血液内科	¥1,000,000	補	日本学術振興会
次世代シーケンサーによるMRD検出法に基づくPOEMS症候群の治療戦略の確立	堺田恵美子	血液内科	¥1,300,000	補	日本学術振興会
Smad3ノックアウトマウスを用いた骨髄線維症発症機構の解析	武内正博	血液内科	¥1,100,000	補	日本学術振興会
新規バイオマーカーLR11の急性白血病および悪性リンパ腫における有用性の確立	大和田千桂子	血液内科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
クリニカル・クラークシップへの専門職連携教育プログラムの導入と学習効果の評価	朝比奈 真由美	総合医療教育研修センター	¥4,810,000	補	日本学術振興会
基盤研究(B) 去勢抵抗性前立腺癌における機能性RNAネットワークの解明と革新的診断治療シーズ	市川智彦	泌尿器科	4,300,000円	補	日本学術振興会
3次元画像を用いた尿流動態可視化とメカニズムの解析	仲村和芳	泌尿器科	500,000円	補	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
治療抵抗性前立腺癌患者の剖検検体を用いた全ゲノム機能性RNAネットワークの解析	五島悠介	泌尿器科	1,000,000円	補	公益財団法人双葉電子記念財団
【基金】食道癌ゲノムおよびエピジェネティクス制御解析による分子治療開発	松原 久裕	食道・胃腸外科	¥2,800,000	補	日本学術振興会
【補助金】食道癌ゲノムおよびエピジェネティクス制御解析による分子治療開発	松原 久裕	食道・胃腸外科	¥1,700,000	補	日本学術振興会
早期診断マルチバイオマーカー開発(血中エクソソームの定量プロテオーム解析による新規腫瘍マーカーの開発における検体収集・候補分子評価)	松原 久裕 (分担研究者)	食道・胃腸外科	¥2,272,728	補	文部科学省 受託研究

外科一般、消化器外科、癌治療分野にかかる学術研究	松原 久裕 (分担研究者)	食道・胃腸外科	¥1,300,000	補	日本学術振興会 受託研究
進行上部消化管癌における血中遊離核酸、エクソソームの解析	松原 久裕	食道・胃腸外科	¥1,300,000	補	日本学術振興会
ナノ化デキストラン・マグネタイトを用いた食道癌に対する誘導温熱免疫療法	阿久津 泰典	食道・胃腸外科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究	阿久津 泰典	食道・胃腸外科	¥500,000	補	厚生労働省 受託研究
【補助金】エピジェネティクス制御の解析を基軸とした食道癌の診断・治療法の開発	星野 敢	食道・胃腸外科	¥3,300,000	補	日本学術振興会
【基金】エピジェネティクス制御の解析を基軸とした食道癌の診断・治療法の開発	星野 敢	食道・胃腸外科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
食道扁平上皮癌幹細胞に対するヒストン修飾を標的とした新規治療戦略の検討	村上 健太郎	食道・胃腸外科	¥1,400,000	補	日本学術振興会
胃癌腹水中エクソソームにタイするゲノム解析に基づく胃癌腹膜播種治療の開発	加野 将之	食道・胃腸外科	¥1,100,000	補	日本学術振興会
食道癌におけるactin 東化タンパクfascinの機能解析及び分子標的の探索	赤沼 直毅	食道・胃腸外科	¥1,300,000	補	日本学術振興会
重粒子線がん治療臨床研究班 上部消化器腫瘍臨床研究	松原 久裕	食道・胃腸外科	¥200,000	補	放射線医学 総合研究所
重粒子線がん治療臨床研究班 下部消化管腫瘍臨床研究	松原 久裕	食道・胃腸外科	¥200,000	補	放射線医学 総合研究所
重粒子線がん治療臨床研究班 上部消化器腫瘍臨床研究	阿久津 泰典	食道・胃腸外科	¥100,000	補	放射線医学 総合研究所
重粒子線がん治療臨床研究班 下部消化管腫瘍臨床研究	宮内 英聡	食道・胃腸外科	¥100,000	補	放射線医学 総合研究所
医療機能情報による患者受療行動への影響に関する調査と検討	鋪野紀好	総合診療部	¥2,700,000	補	厚生労働省
多戦略的翻訳後修飾モディフィコミクスによる肝胆膵早期がんの血中自己抗体の探索	野村文夫	検査部・遺伝子診療部・疾患プロテオミクス寄附研究部門	1,560,000	補	文部科学省
プロテオーム解析を用いた脱髄型ギラン・バレー症候群の新規標的分子の網羅的解析	澤井 撰	検査部・遺伝子診療部	1,690,000	補	文部科学省
新規腫瘍マーカー：クラスリン重鎖の、食道および頭頸部がん診断への応用	清宮正徳	検査部	1,560,000	補	文部科学省
安定同位体標識法による膵癌新規抗癌剤耐性因子の解明と血中診断マーカーへの臨床応用	佐藤守	疾患プロテオミクス寄附研究部門	1,690,000	補	文部科学省
T細胞性急性リンパ性白血病の新規発症メカニズムの解明と診断・治療への応用	松下一之	検査部・遺伝子診療部	1,560,000	補	文部科学省
プロテオーム解析を用いた慢性炎症性脱髄性多発神経炎の新規標的抗原の網羅的解析	別府美奈子	検査部・遺伝子診療部	2,210,000	補	文部科学省

計 20

合計 200

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Yosuke Sakamoto	歯科・顎・口腔外科	A case of an epidermoid cyst arising in the maxillary sinus	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, Volume 26, Issue 2, April 2014, Pages 228-231
2	Kasamatsu A	歯科・顎・口腔外科	Treatment of an extensive maxillary cyst using nasal airway and balloon catheter devices.	Case Rep Dent. 2014;2014:216828. doi: 10.1155/2014/216828. Epub 2014 Apr 6.
3	Uzawa K	歯科・顎・口腔外科	Suppression of metastasis by mirtazapine via restoration of the Lin-7C/β-catenin pathway in human cancer cells.	Sci Rep. 2014 Jun 25;4:5433. doi: 10.1038/srep05433.
4	Yamano Y	歯科・顎・口腔外科	Endoscopically assisted removal of a fish bone penetrating the parotid duct: an unusual case.	J Oral Maxillofac Surg. 2014 Jul;72(7):1343-9. doi: 10.1016/j.joms.2014.02.008. Epub 2014 Feb 14.
5	Shiiba M	歯科・顎・口腔外科	Controlling distant metastasis and surgical treatment are crucial for improving clinical outcome in uncommon head and neck malignancies, such as non-squamous cell carcinoma.	Mol Clin Oncol. 2014 Jul;2(4):609-617. Epub 2014 May 8.
6	Takashi Ishigami	歯科・顎・口腔外科	A case of metastatic sarcomatoid renal cell carcinoma diagnosed by trismus as the initial symptom	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, Volume 26, Issue 4, October 2014, Pages 492-496
7	Fukumoto C	歯科・顎・口腔外科	WWP2 is overexpressed in human oral cancer, determining tumor size and poor prognosis in patients: downregulation of WWP2 inhibits the AKT signaling and tumor growth in mice.	Oncoscience. 2014 Nov 28;1(12):807-20. eCollection 2014.
8	Kasamatsu A	歯科・顎・口腔外科	Decorin in human oral cancer: a promising predictive biomarker of S-1 neoadjuvant chemosensitivity.	Biochem Biophys Res Commun. 2015 Jan 30;457(1):71-6. doi: 10.1016/j.bbrc.2014.12.093. Epub 2014 Dec 27.
9	Morihiro Higo	歯科・顎・口腔外科	A case of a rapidly expanding odontogenic myxoma of the mandible	Oral Science International, Volume 12, Issue 1, January 2015, Pages 22-26
10	Kazuaki Fushimi	歯科・顎・口腔外科	Central myofibroma of the maxilla: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, Volume 27, Issue 1, January 2015, Pages 78-83
11	Koyama T	歯科・顎・口腔外科	ANGPTL3 is a novel biomarker as it activates ERK/MAPK pathway in oral cancer.	Cancer Med. 2015 May;4(5):759-69. doi: 10.1002/cam4.418. Epub 2015 Jan 30.
12	Shida-Sakazume T	歯科・顎・口腔外科	Lysophosphatidylcholine acyltransferase1 overexpression promotes oral squamous cell carcinoma progression via enhanced biosynthesis of platelet-activating factor.	PLoS One. 2015 Mar 24;10(3):e0120143. doi: 10.1371/journal.pone.0120143. eCollection 2015.
13	Shiiba M, Saito K	歯科・顎・口腔外科	Interleukin-1 receptor antagonist (IL1RN) is associated with suppression of early carcinogenic events in human oral malignancies.	Int J Oncol. 2015 May;46(5):1978-84. doi: 10.3892/ijo.2015.2917. Epub 2015 Mar 4.
14	Toeda Yuriko	歯科・顎・口腔外科	Incidence of second primary tumors in patients with carcinoma of the oral cavity: A clinical review	日本口腔科学会雑誌 (Oral Science in Japan) (0029-0297)63巻3号 Page1-2(2014.07)
15	Yamamoto Jun-ichiro	歯科・顎・口腔外科	Multiple pigmentation in Laugier-Hunziker-Baran syndrome	日本口腔科学会雑誌 (Oral Science in Japan) (0029-0297)63巻3号 Page1-2(2014.08)
16	Koyama Tomoyoshi	歯科・顎・口腔外科	Overexpression of protein O-fucosyltransferase 1 (POFUT1) in human oral cancer: correlation with tumor progression	日本口腔科学会雑誌 (Oral Science in Japan) (0029-0297)63巻3号 Page1-2(2014.09)
17	Yosuke Matsumura	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Chiba University Graduate School of Medicine.	Serum procalcitonin level and SOFA score at discharge from the intensive care unit predict post-intensive care unit mortality: A prospective study.	PLoS One 9·12·e114007 2014
18	Shimizu N	輸血・細胞療法部	G-CSF induces the release of the soluble form of LR11, a regulator of myeloid cell mobilization in bone marrow.	Ann Hematol. 2014 93(7):1111-22
19	Mimura N	輸血・細胞療法部	Selective and potent Akt inhibition triggers anti-myeloma activities and enhances fatal endoplasmic reticulum stress induced by proteasome inhibition.	Cancer Res. 2014 15;74(16):4458-69
20	足立明彦	脳神経外科	Risk factors in chronic subdural hematoma: comparison of irrigation with artificial cerebrospinal fluid and normal saline in a cohort analysis.	Plos One 120: 49-54, 2014
21	廣野誠一郎	脳神経外科	Continuous intraoperative monitoring of abnormal muscle response in microvascular decompression for hemifacial spasm: a real-timenavigator for complete relief.	Neurosurg Rev 37: 311-319, 2014
22	廣野誠一郎	脳神経外科	Postnatal development of Blake's pouch cyst: a case report and new insight for its pathogenesis.	Child Nerv Syst 30: 1767-1771, 2014
23	岩立康男	脳神経外科	Malignant progression of glioblastoma.	J Cell Sci Ther 2014, 5: 182 doi: 10.4172/2157-7013.1000182
24	岩立康男	脳神経外科	Non-deep-seated primary CNS lymphoma: therapeutic responses and a molecular signature.	J Neurooncol 117: 261-268, 2014
25	堀口健太郎	脳神経外科	Delayed postoperative epistaxis from the posterior lateral nasal branch of the sphenopalatine artery after endoscopic endonasal approach: Case report.	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 1: 41-43, 2014
26	Kuwabara S	神経内科	Exercise, dominant hand and neurodegeneration.	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2014;85(12):1291
27	Kuwabara S	神経内科	Fasciculations, axonal hyperexcitability, and motoneuronal death in amyotrophic lateral sclerosis.	Clinical Neurophysiology 2014;125(5):872-3
28	Kuwabara S	神経内科	Acquired and genetic channelopathies: in vivo assessment of axonal excitability.	Experimental neurology 2015;263:368-371
29	Mori M	神経内科	Are more sphingosine 1-phosphate receptor agonists a better therapeutic option against multiple sclerosis?	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2014;85(11):1180
30	Masuda H	神経内科	Steroid-Responsive Epilepsia Partialis Continua with Anti-Thyroid Antibodies: A Spectrum of Hashimoto's Encephalopathy?	Case Rep Neurol. 2014;6(2):166-70

31	Masuda H	神経内科	Antemortem detection of colonic $\alpha$ -synuclein pathology in a patient with pure autonomic failure.	Journal of neurology 2014;261(12):2451-2
32	Masuda H	神経内科	Multiple enhancing brain lesions after discontinuation of fingolimod in a patient with multiple sclerosis	Clinical and Experimental Neuroimmunology 2014;5(supp.1):52-53
33	Sawai S	神経内科	Moesin is a possible target molecule for cytomegalovirus-related Guillain-Barré syndrome	Neurology 2014;83(2):113-7
34	Shibuya K	神経内科	Safety and Efficacy of Intravenous Ultra-high Dose Methylcobalamin Treatment for Peripheral Neuropathy: A Phase I/II Open Label Clinical Trial.	Internal Medicine 2014;53(17):1927-31
35	Sugiyama A	神経内科	Isolated autonomic failure without evident somatic polyneuropathy in AL amyloidosis	Amyloid 2014 ;21(3):218-20
36	Uzawa A	神経内科	Modulation of the kallikrein/kinin system by the angiotensin-converting enzyme inhibitor alleviates experimental autoimmune encephalomyelitis	Clin Exp Immunol.2014;178(2):245-52
37	Uzawa A	神経内科	Serum cytokine and chemokine profiles in patients with myasthenia gravis.	Clinical and Experimental Immunology 2014 ;176(2):232-7
38	Yamamoto T	神経内科	Time-dependent changes and gender differences in urinary dysfunction in patients with multiple system atrophy.	NeuroUrol Urodyn. 2014;33(5):516-23
39	Beppu M	神経内科	Serum cytokine and chemokine profiles in patients with chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy	Journal of Neuroimmunology 2015;279:7-10
40	Muto M	神経内科	Current symptomatology in multiple sclerosis and neuromyelitis optica.	European Journal of Neurology 2015;22(2):299-304
41	Sugiyama A	神経内科	Putaminal hypointensity on T2*-weighted MR imaging is the most practically useful sign in diagnosing multiple system atrophy: A preliminary study.	J Neuro Sci. 2015;349(1-2):174-8
42	Watanabe Nemoto M	放射線科	Delayed renal dysfunction after total body irradiation in pediatric malignancies.	J Radiat Res. 55:996-1001, 2014.
43	Sakairi Y,	呼吸器外科	Pattern of metastasis outside tumor-bearing segments in primary lung cancer: rationale for segmentectomy.	Ann Thorac Surg. 2014, 97(5): 1694-700.
44	Nakajima T,	呼吸器外科	Successful Treatment of Lung Cancer by Multimodal Endobronchial Interventions.	Respiration.2014, 88(2):144-7.
45	Yamamoto T,	呼吸器外科	Comparison between endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration and 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in the diagnosis of postoperative nodal recurrence in patients with lung cancer.	Eur J Cardiothorac Surg.2015,47(2):234-8.
46	Iwata T,	呼吸器外科	Experience with perioperative pirfenidone for lung cancer surgery in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Surg Today.2014 Nov 22. [Epub ahead of print]
47	Tagawa T,	呼吸器外科	Sarcomatous components may predict prognosis in patients with pulmonary pleomorphic carcinoma.	Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Nov 25. [Epub ahead of print]
48	Inage T,	呼吸器外科	Endobronchial elastography in the evaluation of esophageal invasion.	J Thorac Cardiovasc Surg.2014 Oct 22. [Epub ahead of print]
49	Mizobuchi T,	呼吸器外科	Spirometric and radiological evaluation of the remnant lung long after major pulmonary resection: can compensatory phenomena be recognized in clinical cases?	Surg Today. 2014, 44(9):1735-43.
50	Yamada Y,	呼吸器外科	Risk Factors for Developing Postthymectomy Myasthenia Gravis in Thymoma Patients.	Ann Thorac Surg.2015 Mar;99(3):1013-9.
51	Baba T	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	Regional reduction of ganglion cell complex after vitrectomy with internal limiting membrane peeling for idiopathic macular hole.	J Ophthalmol. 2014;2014:372589. doi: 10.1155/2014/372589. Epub 2014 Nov 16.
52	Yokouchi H	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	Correlation between serum level of vascular endothelial growth factor and subfoveal choroidal thickness in patients with POEMS syndrome.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014 Nov 4.
53	Nonomura S	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	A case of ophthalmic artery occlusion following injection of hyaluronic acid into the glabellar area.	Nihon Ganka Gakkai Zasshi. 2014 Sep;118(9):783-7.
54	Bikbova G	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	Neuronal cell death and regeneration in diseases associated with advanced glycation end-products accumulation.	Neural Regen Res. 2014 Apr 1;9(7):701-2. doi: 10.4103/1673-5374.131569.
55	Nonomura S	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	The effect of posterior sub-Tenon's capsule triamcinolone acetonide injection to that of pars plana vitrectomy for diabetic macular edema.	Clin Ophthalmol. 2014 Apr 30;8:825-30
56	Bikbova G	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	Neurotrophic factors for retinal ganglion cell neuropathy - with a special reference to diabetic neuropathy in the retina.	Curr Diabetes Rev. 2014 May;10(3):166-76.
57	Baba T	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	Level of vascular endothelial growth factor 165b in human aqueous humor.	Curr Eye Res. 2014 Aug;39(8):830-6
58	Kobayashi N	Department of Ophthalmology and Visual Science Chiba University Graduate School of Medicine	Optic Neuritis Caused by Rathke's Cleft Cyst in Young Adult.	Case Rep Ophthalmol Med. 2014;2014:204762.
59	Miura G	Department of Clinical Pharmacology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University, Chiba, Japan; Division of Pharmacy, University Hospital, Chiba University School of Medicine, Chiba, Japan.; Department of Clinical Pharmacology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University, Chiba, Japan; Division of Pharmacy, University Hospital, Chiba University School of Medicine, Chiba, Japan. Clinical Research Center, University Hospital, Chiba University School of Medicine, Chiba, Japan. Clinical Research Center, University Hospital, Chiba University School of Medicine, Chiba, Japan.; Division of Pharmacy, University Hospital, Chiba University School of Medicine, Chiba, Japan.; Department of Cardiovascular Medicine, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan	Genetic and non-genetic factors responsible for antiplatelet effects of clopidogrel in Japanese patients undergoing coronary stent implantation: an algorithm to predict on-clopidogrel platelet reactivity	Thromb. Res. 134(4):877-883, 2014
60	伊豫雅臣	精神神経科	Efficacy and safety of aripiprazole once-monthly in Asian patients with schizophrenia: A multicenter, randomized, double-blind, non-inferiority study versus oral aripiprazole.	Schizophr Res. 2015 Feb;161(2-3):421-8. Epub 2014 Dec 31.

61	伊豫雅臣	精神神経科	Yokukan-san: a review of the evidence for use of this Kampo herbal formula in dementia and psychiatric conditions.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Sep 12;10:1727-42. eCollection 2014. Review.
62	伊豫雅臣	精神神経科	Efficacy and safety of yokukansan in treatment-resistant schizophrenia: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial (a Positive and Negative Syndrome Scale, five-factor analysis).	Psychopharmacology (Berl). 2015 Jan;232(1):155-64. Epub 2014 Jun 13.
63	伊豫雅臣	精神神経科	A comparison of manifestations and impact of reassurance seeking among Japanese individuals with OCD and depression.	Behav Cogn Psychother 2014 Jun 3:1-12
64	伊豫雅臣	精神神経科	Transporting Cognitive Behavioral Therapy (CBT) and the Improving Access to Psychological Therapies (IAPT) project to Japan: preliminary observations and service evaluation in Chiba.	Journal of Mental Health Training, Education and Practice. 2014;9:155-66
65	伊豫雅臣	精神神経科	The Piccolo Intronic Single Nucleotide Polymorphism rs13438494 Regulates Dopamine and Serotonin Uptake and Shows Associations with Dependence-Like Behavior in Genomic Association Study.	Curr Moi Med.2015;15(3):265-74
66	金原信久	精神神経科	A prospective comparative study of risperidone long-acting injectable for treatment-resistant schizophrenia with dopamine supersensitivity psychosis.	Schizophrenia Research, 2014 Mar 22.
67	金原信久	精神神経科	Second-generation antipsychotics and bone turnover in schizophrenia.	Schizophr Res. 2014 Aug;157(1-3):137-41. Epub 2014 Jun 2.
68	新津富央	精神神経科	Association between serum levels of glial cell-line derived neurotrophic factor and attention deficits in schizophrenia.	Neurosci. Lett. 2014 July 11; 575: 37-41.
69	新津富央	精神神経科	Deficits in emotion based decision-making in schizophrenia: a new insight based on the Iowa Gambling task.	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry 2015 March 3; 57: 52-59.
70	新津富央	精神神経科	A new perspective of deficits in emotion based decision making in schizophrenia.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. in press
71	新津富央	精神神経科	A positive correlation between serum levels of mature brain-derived neurotrophic factor and negative symptoms in schizophrenia.	Psychiatry Res. 2014;215:268-73
72	新津富央	精神神経科	The psychological impact of a dual-disaster caused by earthquakes and radioactive contamination in Ichinoseki after the Great East Japan Earthquake.	BMC Res Notes. 2014;7:307
73	木村 敦史	精神神経科	Presence of psychological distress symptoms associated with onset-related life events in patients with treatment-refractory depression.	J Affect Disord. 2015 Apr 1;175:303-9.
74	松浦暁子	精神神経科	Effects of sodium benzoate on prepulse inhibition deficits and hyperlocomotion in mice after administration of phencyclidine.	Acta Neuropsychiatrica. Scandinavian College of Neuropsychopharmacology
75	椎名明大	こどものこころ診療部	An Open Study of Sulforaphane-rich Broccoli Sprout Extract in Patients with Schizophrenia.	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience, 2015, 13(1):62-67.
76	椎名明大	こどものこころ診療部	Neurobiological Basis of Reactive Aggression: A Review.	International Journal of Forensic Science & Pathology, 2015, 3(3), 94-98.
77	椎名明大	こどものこころ診療部	Factors associated with violence among Japanese patients with schizophrenia prior to psychiatric emergency hospitalization: A case-controlled study.	Schizophrenia Research, 160(1-3),27-32.
78	椎名明大	こどものこころ診療部	Characteristics of Female Mentally Disordered Offenders Culpable under the New Legislation in Japan: A Gender Comparison Study.	Criminal Behaviour and Mental Health.
79	椎名明大	こどものこころ診療部	Defining outcome measures of hospitalization for assessment in the Japanese forensic mental health scheme: a Delphi study.	International Journal of Mental Health Systems 2015,Jan, 9:7
80	佐々木剛	こどものこころ診療部	Old drug tipepidine as new hope for children with ADHD.	Aust N J Psychiatry ,2015 Feb;49(2):181-2. doi: 10.1177/0004867414553952. Epub 2014 Oct 3.
81	佐々木剛	こどものこころ診療部	Tipepidine in adolescent patients with depression: a 4 week, open-label, preliminary study.	Neuropsychiatric Disease and Treatment, 2014;10 719-722.
82	佐々木剛	こどものこころ診療部	Decreased Levels of Serum Oxytocin in Pediatric Patients with Attention Deficit / Hyperactivity Disorder.	Psychiatry Research, 2015,15. pii: S0165-1781(15)00304-2.
83	Takiguchi Y	Medical Oncology	Stereotactic radiosurgery for patients with brain metastases.	The Lancet Oncology. 2014;15(7):e247-e8.
84	Takiguchi Y	Medical Oncology	Chronic obstructive pulmonary disease as a risk factor for lung cancer.	World Journal of Clinical Oncology. 2014;5(4):660-6.
85	Takiguchi Y	Medical Oncology	Current Status of Medical Oncology in Japan—Reality Gleaned from a Questionnaire Sent to Designated Cancer Care Hospitals.	Jpn J Clin Oncol. 2014;44(7):632-40.
86	Takiguchi Y	Medical Oncology	Controlling distant metastasis and surgical treatment are crucial for improving clinical outcome in uncommon head and neck malignancies, such as non-squamous cell carcinoma.	Molecular And Clinical Oncology. 2014;2(4):609-17.
87	Takiguchi Y	Medical Oncology	Detection of chronic obstructive pulmonary disease in community-based annual lung cancer screening: Chiba Chronic Obstructive Pulmonary Disease Lung Cancer Screening Study Group.	Respirology. 2014;19(1):98-104.
88	Takiguchi Y	Medical Oncology	Transbronchial biopsy needle rinse solution used for comprehensive biomarker testing in patients with lung cancer.	Journal Of Thoracic Oncology 2014;9(1):26-32
89	Takiguchi Y	Medical Oncology	Incidence, risk factors and treatment outcomes of extravasation of cytotoxic agents in an outpatient chemotherapy clinic.	Jpn J Clin Oncol. 2014;44(2):168-71.
90	Takiguchi Y	Medical Oncology	Current status and future perspectives of cooperative study groups for lung cancer in Japan.	Respiratory Investigation. 2014;52(6):339-47.



91	Kobayashi K,	糖尿病・代謝・内分泌内科	Efficacy and safety of the dipeptidyl peptidase-4 inhibitor sitagliptin compared with $\alpha$ -glucosidase inhibitor in Japanese patients with type 2 diabetes inadequately controlled on sulfonylurea alone (SUCCESS-2): a multicenter, randomized, open-label, non-inferiority trial	Diabetes Obes Metab 2014 Aug;16(8):761-5. doi: 10.1111/dom.12264. Epub 2014 Feb 18.
92	Tanaka T,	糖尿病・代謝・内分泌内科	PPAR $\beta$ / $\delta$ activation of CD300a controls intestinal immunity	Sci Rep 2014 Jun 24;4:5412. doi: 10.1038/srep05412.
93	Tachibana K,	糖尿病・代謝・内分泌内科	Mutation in Insulin Receptor Attenuates Oxidative Stress and Apoptosis in Pancreatic Beta-Cells Induced by Nutrition Excess: Reduced Insulin Signaling and ROS.	Horm Metab Res 2015 Mar;47(3):176-83. doi: 10.1055/s-0034-1389990. Epub 2014 Oct 8
94	Kobayashi K,	糖尿病・代謝・内分泌内科	Mitochondrial superoxide in osteocytes perturbs canalicular networks in the setting of age-related osteoporosis	Sci Rep 2015 Mar 16;5:9148. doi: 10.1038/srep09148.
95	石田 敬一	心臓血管外科	Perioperative anticoagulation management in antiphospholipid syndrome	Asian Cardiovasc Thorac Ann.23(7)869-71 2015
96	Saito T	Department of Pediatric Surgery, Chiba University	Role of Pediatric ERCP in an Era Stressing Less-invasive Imaging Modalities	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2014;59(2):204-9
97	Terui K	Department of Pediatric Surgery, Chiba University	The Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group. Prognostic factors of gastroesophageal reflux disease in congenital diaphragmatic hernia: a multicenter study	Pediatr Surg Int. 2014; 30(11): 1129-34
98	Ishikawa H,	生殖医学	Serous Tubal Intraepithelial Carcinoma in a Japanese Woman with a Deleterious BRCA1 Mutation.	Jpn J Clin Oncol. 2014 Jun; 44(6):597-601
99	Mitsuhashi A,	生殖医学	Effects of metformin on endometrial cancer cell growth in vivo: A preoperative prospective trial.	Cancer. 2014 Oct;120 (19):2986-95
100	Uehara T,	婦人科	Numerous psammoma bodies in cervical cytology of high-grade endocervical adenocarcinoma.	Cytopathology 2014 Aug; 25(4): 274-275
101	Mitsuhashi A,	生殖医学	The Efficacy of Palonosetron Plus Dexamethasone in Preventing Chemoradiotherapy-induced Nausea and Emesis in Patients Receiving Daily Low-dose Cisplatin-based Concurrent Chemoradiotherapy for Uterine Cervical Cancer: A Phase II Study.	Am J Clin Oncol. 2014 Aug 20. [Epub ahead of print]
102	Makio Shozu,	生殖医学	Understanding the pathological manifestations of aromatase excess syndrome: lessons for clinical diagnosis	Exprt Rev.Endocrinol. Metab. 2014; 9(4): 397-409
103	Hiroshi Ishikawa	生殖医学	Chapter 11 Aromatase Expression in Endometriosis and Its Significance	Endometriosis Pathogenesis and Treatment (Harada Ed.), Springer, 2014: 155-178
104	藤井克則	小児病態学	Anterior commissure involvement in human herpes virus 6 encephalitis.	Child Neurol Open.1: 1-4, 2014
105	藤井克則	小児病態学	Gorlin syndrome (nevoid basal cell carcinoma syndrome): update and literature review.	Pediatr Int.56:667-674,2014
106	井上祐三朗	小児病態学	Microbiome/microbiota and allergies.	Semin Immunopathol.37(1):57-64,2015
107	日野もえ子	小児科	Expression of CD203c on basophils as a marker of immunoglobulin E-mediated (L)-asparaginase allergy.	Leuk Lymphoma.55:92-96,2014
108	塩濱 直	小児科	Coexistence of neuroblastoma detected on staging of Langerhans cell histiocytosis.	Pediatr Int.56:608-610,2014
109	塩濱 直	小児科	Oxidative stress-induced JNK1 phosphorylation inhibits hedgehog signaling and osteoblast differentiation.	Cell Biol Int Rep.21:53-62,2014
110	水落弘美	小児病態学	Hedgehog signaling is synergistically enhanced by nutritional deprivation and ligand stimulation in human fibroblasts of Gorlin syndrome.	Biochem Biophys Res Commun.13:457(3): 318-323,2015
111	Sanayama Y	Department of Allergy and Clinical Immunology	Prediction of therapeutic responses to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis - biomarkers identified by analyses of gene expression in peripheral blood mononuclear cells using genome-wide DNA microarray	Arthritis Rheumatol. 2014;66(6):1421-31.
112	Iwamoto T	Department of Allergy and Clinical Immunology	Interleukin-21-Producing c-Maf-expressing CD4+ T cells induce effector CD8+ T cells and enhance autoimmune inflammation in scurfy mice	Arthritis Rheumatol. 2014;66(8):2079-90.
113	Norimoto A	Department of Allergy and Clinical Immunology	Dectin-2 promotes house dust mite-induced T helper type 2 and type 17 cell differentiation and allergic airway inflammation in mice	Am J Respir Cell Mol Biol. 2014;51(2):201-9.
114	Tanaka S	Department of Allergy and Clinical Immunology	Sox5 and c-Maf cooperatively induce Th17 cell differentiation via ROR $\gamma$ t induction as downstream targets of Stat3.	J Exp Med. 2014;211(9):1857-74.
115	Ikeda K	Department of Allergy and Clinical Immunology	Ultrasonographic assessment reveals detailed distribution of synovial inflammation in Blau syndrome.	Arthritis Res Ther. 2014;16(2):R89.
116	Yokota M	Department of Allergy and Clinical Immunology	Roles of mast cells in the pathogenesis of inflammatory myopathy.	Arthritis Res Ther. 2014;16(2):R72.
117	Iwamoto T	Department of Allergy and Clinical Immunology	Ultrasonographic assessment predicts relapse after discontinuation of biological agents in patients with rheumatoid arthritis in clinical remission.	Arthritis Care Res (Hoboken). 2014;66(10):1576-81.
118	Nakagomi D	Department of Allergy and Clinical Immunology	Matrix metalloproteinase 12 is produced by M2 macrophages and plays important roles in the development of contact hypersensitivity.	J Allergy Clin Immunol. 2015;135(5):1397-400.
119	Takatori H	Department of Allergy and Clinical Immunology	Helios enhances Treg cell function in cooperation with FoxP3.	Arthritis Rheumatol. 2015;67(6):1491-502.
120	Ishiwada N	感染症管理治療部	The incidence of pediatric invasive Haemophilus influenzae and pneumococcal disease in Chiba prefecture, Japan before and after the introduction of conjugate vaccines.	Vaccine 2014 Sep 22;32(42):5425-31

121	Taniguchi T	感染症管理治療部	Depression severity is associated with increased risk behaviors and decreased CD4 cell counts.	AIDS Care 2014;26(8):1004-12
122	Okamoto Y,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Efficacy and safety of sublingual immunotherapy for two seasons in patients with Japanese cedar pollinosis.	Int Arch Allergy Immunol.2015;166:177-188
123	Hirahara K,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Asymmetric action of STAT transcription factors drives transcriptional outputs and cytokine specificity.	Immunity 2015;19;42(5):877-89.
124	Iinuma T,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Interleukin-25 and mucosal T cells in noneosinophilic and eosinophilic chronic rhinosinusitis.	Ann Allergy Asthma Immunol.2015;114(4):289-98
125	Kikkawa N,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	microRNA-504 inhibits cancer cell proliferation via targeting CDK6 in hypopharyngeal squamous cell carcinoma.	Int J Oncol. 2014 ;44(6):2085-92.
126	Hamasaki S,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Characteristics of the Chiba environmental challenge chamber.	Allergol Int. 2014; 63, Issue 1, 41-50
127	Fukumoto I,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Identification of tumour suppressive microRNA-451a in hypopharyngeal squamous cell carcinoma based on microRNA expression signature.	Br J Cancer2014; 111, 386-394.
128	Hiroyuki Takaoka	循環器内科学	Utility of non-contrast CT just after percutaneous coronary intervention in de novo acute myocardial infarction for prediction of infarct-size in comparison with conventional left ventriculogram.	Int J Cardiol. 2014 May 15;173(3):525-7
129	Koya Ozawa	循環器内科学	Utility of three-dimensional global longitudinal strain of the right ventricle using transthoracic echocardiography for right ventricular systolic function in pulmonary hypertension.	Int J Cardiol. 2014 Jun 15;174(2):426-30
130	Koya Ozawa	循環器内科学	Improvement and problems in appropriate use of cardiac CT: 2003, 2007 and 2011 use of CT-based on ACCF/SCCT/ACR/AHA/ASE/ASNC/NASCI/SCAI/SCMR 2010 appropriate use criteria for cardiac CT.	Int J Cardiol. 2014 Jun 15;174(2):385-8
131	Masataka Yokoyama	循環器内科学	Inhibition of Endothelial p53 Improves Metabolic Abnormalities Related to Dietary Obesity	Cell Rep. 2014 Jun 12;7(5):1691-703
132	Takashi K. Ito	循環器内科学	A Crucial Role for CDC42 in Senescence-Associated Inflammation and Atherosclerosis	PLoS One. 2014 Jul 24;9(7):e102186
133	Masahiro Nakano	循環器内科学	Estimation of the origin of ventricular outflow tract arrhythmia using synthesized right-sided chest leads	Europace. 2014 Sep;16(9):1373-8
134	Koya Ozawa	循環器内科学	Risk stratification using a combination of left ventricular fibrosis and number of morphological types of ventricular premature beats in cardiomyopathy subjects without obstructed coronary arteries	Int J Cardiol. 2014 Sep;176(1):236-9
135	Koya Ozawa	循環器内科学	Which number of morphological types of ventricular premature beats predicts poor prognosis in subjects with various cardiomyopathies without obstructed coronary arteries?	Int J Cardiol. 2014 Sep;176(1):243-7
136	Mei-Lan Liu	循環器内科学	Anti-inflammatory peptides from cardiac progenitors ameliorate dysfunction after myocardial infarction.	J Am Heart Assoc. 2014 Dec 2;3(6):e001101
137	Hiroyuki Takaoka	循環器内科学	A comparison of successfully published cardiac imaging oral and poster abstracts presented at the 2009 AHA, ACC and RSNA annual meetings.	Int J Cardiol. 2014 Dec 15;177(2):503-4
138	Masae Uehara	循環器内科学	CHA2DS2-VASc score is a useful-predictor of not prognosis but coronary-arteriosclerosis in chronic atrial-fibrillation compared with CHADS2 score: a two-center study of 320-slice CT, part 2.	Int J Cardiol. 2014 Dec 15;177(2):368-73
139	Nobusada Funabashi	循環器内科学	A two center 320 slice CT study for evaluating coronary arteries in subjects with chronic atrial fibrillation: a comparison of prospective and retrospective ECG-gating acquisition	Int J Cardiol. 2014 Dec 15;177(2):374-9
140	Hiroyuki Takaoka	循環器内科学	Detection of significant stenosis in the left anterior descending artery by 'virtual myocardial perfusion' bolus tracking, 320 slice computed tomography	Int J Cardiol. 2014 Dec 20;177(3):1001-7
141	Ken Kato	循環器内科学	Recurrent mid-ventricular takotsubo cardiomyopathy	Int J Cardiovasc Imaging. 2014 Dec; 30(8): 1417-8
142	Masayuki Ishimura	循環器内科学	Unexpected and unmanageable malfunctions of current co-radial pacemaker leads	Europace. 2015 Jan; 17(1):166
143	Masae Uehara	循環器内科学	The CHADS2 score is a useful predictor of coronary arteriosclerosis on 320 slice CT and may correlate with prognosis in subjects with atrial fibrillation.	Int J Cardiol. 2015 Jan 20;179:84-9
144	Nobusada Funabashi	循環器内科学	Influence of tube voltage and heart rate on the Agatston calcium score using an in vitro, novel ECG-gated dual energy reconstruction 320 slice CT technique	Int J Cardiol. 2015 Feb 1;180:218-20
145	中世古知昭	血液内科	Autologous stem cell transplantation for POEMS syndrome.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk. 2014; 14(1): 21-23.
146	川口岳晴	血液内科	Potential utility of serum soluble LR11 as a diagnostic biomarker for intravascular large B-cell lymphoma.	Leuk Lymphoma. 2014; 55(10): 2391-2394.
147	塚本祥吉	血液内科	Tetraspanin CD9 modulates ADAM17-mediated shedding of LR11 in leukocytes.	Exp Mol Med. 2014 Apr 4 46:e89
148	一色佑介	血液内科	Acute myeloid leukemia concurrent with spinal epidural extramedullary myeloid sarcoma accompanied by high CD25 expression and FLT3-ITD mutation.	Intern Med. 2014; 53(11):1159-1164.
149	川尻千華	血液内科	Successful treatment of Philadelphia chromosome-positive mixed phenotype acute leukemia by appropriate alternation of second-generation tyrosine kinase inhibitors according to BCR-ABL1 mutation status.	Int J Hematol. 2014; 99(4):513-518,
150	清水直美	血液内科	G-CSF induces the release of the soluble form of LR11, a regulator of myeloid cell mobilization in bone marrow.	Ann Hematol. 2014; 93(7):1111-1122.

151	堺田恵美子	血液内科	Incidence, risk factors and treatment outcomes of extravasation of cytotoxic agents in an outpatient chemotherapy clinic.	Jpn J Clin Oncol. 2014; 44(2): 168-171.
152	三村尚也	血液内科	Selective and potent Akt inhibition triggers anti-myeloma activities and enhances fatal endoplasmic reticulum stress induced by proteasome inhibition.	Cancer Res. 2014; 74(16):4458-4469.
153	Yusuke Goto	泌尿器科	The microRNA-23b/27b/24-1 cluster is a disease progression marker and tumor suppressor in prostate cancer	Oncotarget.2014;5(17):7748-59
154	Yusuke Goto	泌尿器科	Tumour-suppressive microRNA-224 inhibits cancer cell migration and invasion via targeting oncogenic TP52 in prostate cancer	FEBS Lett.2014;588(10):1973-1982
155	Rika Nishikawa	泌尿器科	Tumor-suppressive microRNA-29s inhibit cancer cell migration and invasion via targeting LAMC1 in prostate cancer.	Int J Oncol.2014;45(1):401-410
156	Rika Nishikawa	泌尿器科	Tumor-suppressive microRNA-218 inhibits cancer cell migration and invasion via targeting of LASP1 in prostate cancer	Cancer Sci.2014;105(7):802-811
157	Yusup G	食道・胃腸外科/先端応用外科学	A COX-2 inhibitor enhances the antitumor effects of chemotherapy and radiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma.	Int J Oncol. 2014 Apr;44(4):1146-52.
158	Uesato M	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Monitoring salivary amylase activity is useful for providing timely analgesia under sedation.	World J Gastrointest Endosc. 2014 Jun 16;6(6):240-7.
159	Matsumoto Y	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Efficacy of tumor-targeting Salmonella typhimurium AI-R on nude mouse models of metastatic and disseminated human ovarian cancer.	J Cell Biochem. 2014 Nov;115(11):1996-2003.
160	Uesato M	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Lymphoepithelioma-like esophageal carcinoma with macroscopic reduction.	World J Gastrointest Endosc. 2014 Aug 16;6(8):385-9.
161	Takeshita N	食道・胃腸外科/先端応用外科学	A 3-step gradual dilation method: a new safe technique of percutaneous endoscopic gastrostomy for obstructive esophageal cancer.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2014 Aug;24(4):e140-2.
162	Isozaki Y	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Screening of alternative drugs to the tumor suppressor miR-375 in esophageal squamous cell carcinoma using the connectivity map.	Oncology. 2014;87(6):351-63.
163	Akutsu Y	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Is the outcome of a salvage surgery for T4 thoracic esophageal squamous cell carcinoma really poor?	World J Surg. 2014 Nov;38(11):2891-7.
164	Qin W	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Modulated electro-hyperthermia enhances dendritic cell therapy through an abscopal effect in mice.	Oncol Rep. 2014 Dec;32(6):2373-9.
165	Akutsu Y	食道・胃腸外科/先端応用外科学	The outcome of laparoscopic surgery with and without short gastric vessel division for achalasia.	Int Surg. 2014 Nov-Dec;99(6):846-50.
166	Isozaki Y	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Usefulness of microRNA-375 as a prognostic and therapeutic tool in esophageal squamous cell carcinoma.	Int J Oncol. 2015 Mar;46(3):1059-66.
167	Hoshino I	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Detection of peritoneal dissemination with near-infrared fluorescence laparoscopic imaging using a liposomal formulation of a synthesized indocyanine green liposomal derivative.	Anticancer Res. 2015 Mar;35(3):1353-9.
168	Hayano K	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Computed tomography perfusion imaging as a potential imaging biomarker of colorectal cancer.	World J Gastroenterol. 2014 Dec 14;20(46):17345-51.
169	Tsakamoto T	総合診療部	Investigation of diseases that cause diagnostic difficulty for Japanese general physicians.	Asia Pacifis Family Medicine 2014; 13 (9)
170	Shikino K	総合診療部	Influence of predicting the diagnosis from the history on the accuracy of physical examination.	Adv Med Educ Pract 2015; 20(6): 143-8.
171	Hirukawa M	総合診療部	Satisfaction of patients and physicians with outpatient consultations at university hospital .	Intern Med 2015; 54 (12) : 1499-504.
172	Suzuki S	総合診療部	Positron emission tomography findings in a patient with multiple myeloma of polymyalgia rheumatica-like symptoms caused by paraneoplastic syndrome	BMJ Case Rep 2014
173	Shikino K	総合診療部	Magnetic resonance image of sternoclavicular joint arthritis due to SAPHO syndrome.	International Journal of Case Reports and Images 2014; 5 (6) : 462-464.
174	Shikino K	総合診療部	Vitamin D-deficient osteomalacia due to excessive self-restrictions for atopic dermatitis.	BMJ Case Rep 2014; 1 (3)
175	Shikino K	総合診療部	Acute renal failure metabolic alkalosis due to gastric scirrhous carcinoma.	General Medicine 2014; 15 (2)
176	Shikino K	総合診療部	Cervicofacial actinomycosis.	J Gen Intern Med 2015; 30 (2) : 263-.
177	Shikino K	総合診療部	bone metastases of prostate cancer.	BMJ Case Rep 2014
178	Kondo T	総合診療部	Recurrent back pain of eosinophilic esophagitis.	Am J Med 2014; 128 (4) : e1-e2.
179	Kondo T	総合診療部	Paget-Schroetter Syndrome.	QJM:An International Journal of Medicine 2014; 108 (7)
180	Shikino K	総合診療部	Abnormal paroxysmal nocturnal behavior due to insulinoma.	Am J Med 2014; 128 (5) : e7-e8.

181	Suzuki S	総合診療部	Fever and cough without pulmonary abnormalities on CT: relapsing polychondritis restricted to the airways.	The Lancet 2015; 385 :88.
182	Ikegami A	総合診療部	Iliac vein compression syndrome due to bladder distention caused by urethral calculi.	Case Reports in Urology 2015; 2015 : 3-.
183	Shikino K	総合診療部	FDG positron emission tomography of giant cell arteritis with polymyalgia rheumatica.	BMJ Case Rep 2015
184	Kondo T	総合診療部	Bilateral trapezius ridge pain with sustained low-grade fever caused by aortic dissection.	Can J Cardiol 2015
185	Suzuki S	総合診療部	Narcolepsy with cataplexy in an elderly woman.	J Gen Intern Med 2015
186	Okamoto H	Department of Japanese-Oriental (Kampo) Medicine Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba City, Japan. Department of Psychiatry, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba City, Japan.	Yokukan-san: a review of the evidence for use of this Kampo herbal formula in dementia and psychiatric conditions.	Neuropsychiatr Dis Treat. 巻数:2014年10月, 1727-1742 ページ, 2014年出版
187	Sumino M	Department of Japanese Oriental (Kampo) Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 1-8-1 Inohana, Chuo-ku, Chiba 260-8670, Japan. Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University, 6-2-1 Kashiwanoha, Kashiwa 277-0882, Japan.	A simultaneous determination of principal compounds in tokishakuyakusan by high-performance liquid chromatography with diode array detector.	J Chromatogr Sc 巻数:2015年53号, 320-324ページ, 2014年出版
188	Oji T	Department of Japanese Oriental (Kampo) Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 1-8-1 Inohana, Chuo-ku, Chiba 260-8670, Japan. Center for Frontier Medical Engineering, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Chiba 263-8522, Japan. Graduate School of Engineering, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan.	Study of factors involved in tongue color diagnosis by kampo medical practitioners using the farnsworth-munsell 100 hue test and tongue color images Study of factors involved in tongue color diagnosis by kampo medical practitioners using the farnsworth-munsell 100 hue test and tongue color images.	Evid Based Complement Alternat Med 巻数:2014年号, Article ID 783102, 2014年出版
189	Kanogawa N	消化器内科	Successful interventional treatment for arterioportal fistula caused by radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma.	Case Rep Oncol. 2014 Dec 19;7(3):833-9. doi: 10.1159/000370305. eCollection 2014 Sep-Dec.
190	Seimiya M	検査部	Change in albumin measurement method affects diagnosis of nephrotic syndrome.	Clin Lab. 2014;60(10):1663-7.
191	Sakai Y	消化器内科	Endoscopic papillary large balloon dilation for removal of bile duct stones.	World J Gastroenterol. 2014 Dec 7;20(45):17148-54. doi: 10.3748/wjg.v20.i45.17148.
192	Suzuki E	消化器内科	Incidental tumor necrosis caused by the interventional alteration of hepatic arterial flow in patients with advanced hepatocellular carcinoma.	Clin J Gastroenterol. 2015 Feb;8(1):41-6. doi: 10.1007/s12328-014-0542-y. Epub 2014 Dec 7.
193	Arai M	消化器内科	Two-week treatment with proton pump inhibitor is sufficient for healing post endoscopic submucosal dissection ulcers.	World J Gastroenterol. 2014 Nov 21;20(43):16318-22. doi: 10.3748/wjg.v20.i43.16318.
194	Nakamoto S	分子ウイルス学	Reactivation of hepatitis B virus in hematopoietic stem cell transplant recipients in Japan: efficacy of nucleos(t)ide analogues for prevention and treatment.	Int J Mol Sci. 2014 Nov 21;15(11):21455-67. doi: 10.3390/ijms15121455.
195	Jiang X	消化器・腎臓内科学	Hepatitis C virus nonstructural protein 5A inhibits thapsigargin-induced apoptosis.	PLoS One. 2014 Nov 19;9(11):e113499. doi: 10.1371/journal.pone.0113499. eCollection 2014.
196	Nakagawa T	消化器内科	A Case of Blind Loop Syndrome Caused by Infection with Giardia duodenalis Diagnosed with Double Balloon Enteroscopy.	Case Rep Gastroenterol. 2014 Sep 23;8(3):276-81. doi: 10.1159/000367593. eCollection 2014 Sep.
197	Saito K	消化器内科	Severe diffuse duodenitis successfully treated with intravenous tacrolimus after colectomy for ulcerative colitis.	Intern Med. 2014;53(21):2477-81. Epub 2014 Nov 1.
198	Fujwara K	消化器・腎臓内科学	Fixed point observation of etiology of acute liver failure according to the novel Japanese diagnostic criteria.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015 Mar;22(3):225-9. doi: 10.1002/jbhp.178. Epub 2014 Oct 22.
199	Jiang X	消化器・腎臓内科学	Knockdown of glucose-regulated protein 78 enhances poly(ADP-ribose) polymerase cleavage in human pancreatic cancer cells exposed to endoplasmic reticulum stress.	Oncol Rep. 2014 Dec;32(6):2343-8. doi: 10.3892/or.2014.3533. Epub 2014 Oct 6.
200	Ooka Y	消化器内科	Partial splenic embolization with transarterial chemoembolization in patients with hepatocellular carcinoma accompanied by thrombocytopenia.	Biomed Res Int. 2014;2014:960628. doi: 10.1155/2014/960628. Epub 2014 Sep 15.
201	Matsumura T	消化器内科	Risk factors for early and delayed post-operative bleeding after endoscopic submucosal dissection of gastric neoplasms, including patients with continued use of antithrombotic agents.	BMC Gastroenterol. 2014 Oct 3;14:172. doi: 10.1186/1471-230X-14-172.
202	Fujwara K	消化器・腎臓内科学	Importance of the poor prognosis of severe and fulminant hepatitis in the elderly in an era of a highly aging society: Analysis in a Japanese center.	Hepatol Res. 2014 Sep 19. doi: 10.1111/hepr.12426.
203	Sakai Y	消化器・腎臓内科学	Clinical usefulness and current problems of pancreatic duct stenting for preventing post-ERCP pancreatitis.	World J Clin Cases. 2014 Sep 16;2(9):426-31. doi: 10.12998/wjcc.v2.i9.426. Review.
204	Ogasawara S	先端科学療法学	Efficacy of sorafenib in intermediate-stage hepatocellular carcinoma patients refractory to transarterial chemoembolization.	Oncology. 2014;87(6):330-41. doi: 10.1159/000365993. Epub 2014 Sep 6.
205	Tawada A	消化器内科	Efficacy of transarterial chemoembolization targeting portal vein tumor thrombus in patients with hepatocellular carcinoma.	Anticancer Res. 2014 Aug;34(8):4231-7.
206	Kanda T	消化器・腎臓内科学	Androgen receptor signaling in hepatocellular carcinoma and pancreatic cancers.	World J Gastroenterol. 2014 Jul 28;20(28):9229-36. doi: 10.3748/wjg.v20.i28.9229. Review.
207	Tsuyuguchi T	消化器・腎臓内科学	Ten-year long-term results after non-surgical management of hepatolithiasis, including cases with choledochostomy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Nov;21(11):795-800. doi: 10.1002/jbhp.134. Epub 2014 Jul 29.
208	Tawada A	消化器内科	18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography might be useful for diagnosis of hepatic amyloidosis.	Int Med Case Rep J. 2014 Jun 20;7:103-9. doi: 10.2147/IMCRJ.S63296. eCollection 2014.
209	Sekimoto T	消化器内科	Hepatic filling rate of a microbubble agent: a novel predictor of long-term outcomes in patients with cirrhosis.	Ultrasound Med Biol. 2014 Sep;40(9):2082-8. doi: 10.1016/j.ultrasmedbio.2014.04.014. Epub 2014 Jul 10.
210	Jiang X	消化器・腎臓内科学	Suppression of La antigen exerts potential antiviral effects against hepatitis A virus.	PLoS One. 2014 Jul 7;9(7):e101993. doi: 10.1371/journal.pone.0101993. eCollection 2014.

211	Jiang X	消化器・腎臓内科学	Regulation of microRNA by hepatitis B virus infection and their possible association with control of innate immunity.	World J Gastroenterol. 2014 Jun 21;20(23):7197-206. doi: 10.3748/wjg.v20.i23.7197. Review.
212	Ohtsuka M	臓器制御外科学	Intraductal papillary neoplasms of the bile duct.	Int J Hepatol. 2014;2014:459091. doi: 10.1155/2014/459091. Epub 2014 May 18. Review.
213	Kanda T	消化器・腎臓内科学	Occurrence and Recurrence of Hepatocellular Carcinoma Were Not Rare Events during Phlebotomy in Older Hepatitis C Virus-Infected Patients.	Case Rep Oncol. 2014 May 8;7(2):288-96. doi: 10.1159/000362869. eCollection 2014 May.
214	Kanda T	消化器・腎臓内科学	New treatments for genotype 1 chronic hepatitis C – focus on simeprevir.	Ther Clin Risk Manag. 2014 May 24;10:387-94. doi: 10.2147/TCRM.S50170. eCollection 2014. Review.
215	Kondo T	消化器・腎臓内科学	Similarities and differences in the clinical features between cardia varices and esophageal varices.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Nov;29(11):1911-8. doi: 10.1111/jgh.12647.
216	Maruyama H	消化器・腎臓内科学	Linoleate appears to protect against palmitate-induced inflammation in Huh7 cells.	Lipids Health Dis. 2014 May 13;13:78. doi: 10.1186/1476-511X-13-78.
217	Hayashi M	消化器内科	Acute liver injury in a patient with alcohol dependence: a case resembling autoimmune hepatitis or drug-induced liver injury.	Case Rep Gastroenterol. 2014 Apr 5;8(1):129-33. doi: 10.1159/000362442. eCollection 2014 Jan.
218	Chiba T	消化器・腎臓内科学	Histone lysine methyltransferase SUV39H1 is a potent target for epigenetic therapy of hepatocellular carcinoma.	Int J Cancer. 2015 Jan 15;136(2):289-98. doi: 10.1002/ijc.28985. Epub 2014 May 30.
219	Saito T	消化器内科	Effect of previous interferon-based therapy on recurrence after curative treatment of hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	Int J Med Sci. 2014 May 7;11(7):707-12. doi: 10.7150/ijms.8764. eCollection 2014.
220	Tawada A	消化器内科	Intracranial metastasis in a patient with hepatocellular carcinoma and gastric cancer.	Case Rep Oncol. 2014 Mar 14;7(1):199-203. doi: 10.1159/000360982. eCollection 2014 Jan.
221	Naito A	呼吸器内科	Autoimmune hepatitis in a patient with pulmonary arterial hypertension treated with endothelin receptor antagonists.	Intern Med. 2014;53(7):771-5. Epub 2012 Mar 1.
222	Nakamoto S	分子ウイルス学	Hepatitis C virus NS5A Inhibitors and drug resistance mutations.	World J Gastroenterol. 2014 Mar 21;20(11):2902-12. doi: 10.3748/wjg.v20.i11.2902. Review.
223	Maruyama H	消化器・腎臓内科学	Saline-enhanced ultrasonography: prediction of X-ray appearance of hepatic venography in patients with cirrhosis.	Scand J Gastroenterol. 2014 May;49(5):625-31. doi: 10.3109/00365521.2014.887766. Epub 2014 Mar 20.
224	Matsumura T	消化器内科	Predictive factor of re-bleeding after negative capsule endoscopy for obscure gastrointestinal bleeding: over 1-year follow-up study.	Dig Endosc. 2014 Sep;26(5):650-8. doi: 10.1111/den.12257. Epub 2014 Mar 13.
225	Ooka Y	消化器内科	A phase I/II study of S-1 with sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma.	Invest New Drugs. 2014 Aug;32(4):723-8. doi: 10.1007/s10637-014-0077-6. Epub 2014 Mar 7.
226	Fujiwara K	消化器・腎臓内科学	Historical, present, and future significance of corticosteroid in the treatment of acute liver failure.	Hepatology. 2014 Oct;60(4):1447-8. doi: 10.1002/hep.27111. Epub 2014 Aug 25.
227	Tanaka T	消化器・腎臓内科学	Downregulation of microRNA-431 by human interferon- $\beta$ inhibits viability of medulloblastoma and glioblastoma cells via upregulation of SOCS6.	Int J Oncol. 2014 May;44(5):1685-90. doi: 10.3892/ijo.2014.2317. Epub 2014 Feb 28.
228	Jiang X	消化器・腎臓内科学	Involvement of androgen receptor and glucose-regulated protein 78 kDa in human hepatocarcinogenesis.	Exp Cell Res. 2014 May 1;323(2):326-36. doi: 10.1016/j.yexcr.2014.02.017. Epub 2014 Feb 26.
229	Ogasawara S	先端科学療法学	Is intra-patient sorafenib dose re-escalation safe and tolerable in patients with advanced hepatocellular carcinoma?	Int J Clin Oncol. 2014Dec;19(6):1029-36. doi: 10.1007/s10147-014-0668-4. Epub 2014 Feb 13.
230	Hosokawa I	臓器制御外科学	Preoperative diagnosis and surgical management for solid pseudopapillary neoplasm of the pancreas.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Aug;21(8):573-8. doi: 10.1002/jbhp.96. Epub 2014 Feb 17.
231	Chiba T	消化器・腎臓内科学	Disulfiram eradicates tumor-initiating hepatocellular carcinoma cells in ROS-p38 MAPK pathway-dependent and -independent manners.	PLoS One. 2014 Jan 13;9(1):e84807. doi: 10.1371/journal.pone.0084807. eCollection 2014.
232	Maruyama H	消化器・腎臓内科学	Sonographic and clinical features of collateral vessels at the splenic hilum in cirrhosis.	Clin Radiol. 2014 Mar;69(3):e140-5. doi: 10.1016/j.crad.2013.11.001. Epub 2013 Dec 17.
233	Liu Y	分子病態解析学	Increased concentrations of apo A-I and apo A-II fragments in the serum of patients with hepatocellular carcinoma by magnetic beads-assisted MALDI-TOF mass spectrometry.	Am J Clin Pathol. 2014 Jan;141(1):52-61. doi: 10.1309/AJCPBLFBNAP6N2UN.
234	Tanaka T	消化器・腎臓内科学	Expression level of sonic hedgehog correlated with the speed of gastric mucosa regeneration in artificial gastric ulcers.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Apr;29(4):736-41. doi: 10.1111/jgh.12445.
235	Kondo T	消化器・腎臓内科学	Natural history of postvascular-phase iso-enhanced lesions on the sonogram in chronic liver diseases.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Jan;29(1):165-72. doi: 10.1111/jgh.12449.
236	Kondo T	消化器・腎臓内科学	Influence of parasumbilical vein patency on the portal hemodynamics of patients with cirrhosis.	J Clin Gastroenterol. 2014 Feb;48(2):178-83. doi: 10.1097/MCG.0b013e3182a46d84.
237	Maruyama H	消化器・腎臓内科学	The potential of transabdominal 3D color doppler ultrasonography for diagnosis of gastric varices.	J Clin Gastroenterol. 2014 Aug;48(7):629-34. doi: 10.1097/MCG.0b013e3182a47a1c.
238	Kanda T	消化器・腎臓内科学	Faldaprevir for the treatment of hepatitis C	Int J Mol Sci. 2015 Mar 4;16(3):4985-96. doi: 10.3390/ijms16034985. Review.
239	Jiang X	消化器・腎臓内科学	The JAK2 inhibitor AZD1480 inhibits hepatitis A virus replication in Huh7 cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2015 Mar 20;458(4):908-12. doi: 10.1016/j.bbrc.2015.02.058. Epub 2015 Feb 19.
240	Maruoka D	臨床試験部	Sporadic nonampullary duodenal adenoma/carcinoma is associated with not only colon adenoma/carcinoma but also gastric cancer: association of location of duodenal lesions with comorbid diseases.	Scand J Gastroenterol. 2015 Mar;50(3):333-40. doi: 10.3109/00365521.2014.1003399. Epub 2015 Jan 13.

241	Fujiwara K	消化器・腎臓内科学	Severe and fulminant hepatitis of indeterminate etiology in a Japanese center.	Hepatol Res. 2015 Jan 12. doi: 10.1111/hepr.12483.
242	Nakamura M	消化器内科	Reappearance of serum hepatitis B viral DNA in patients with hepatitis B surface antigen seroclearance.	Hepatology. 2015 Jan 8. doi: 10.1002/hep.27693.
243	Fujiwara K	消化器・腎臓内科学	On-line hemodiafiltration or high-flow continuous hemodiafiltration is one of the most effective artificial liver support devices for acute liver failure in Japan.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015 Mar;22(3):246-7. doi: 10.1002/jbhp.204. Epub 2015 Jan 7.
244	Maruyama H	消化器・腎臓内科学	Retrograde detection of the intrahepatic portal vein in primary biliary cirrhosis: is sinusoidal blockage the underlying pathophysiology?	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2015 Mar;27(3):321-7. doi: 10.1097/MEG.000000000000026
245	Tawada A	消化器内科	Transarterial chemoembolization with miriplatin plus epirubicin in patients with hepatocellular carcinoma.	Anticancer Res. 2015 Jan;35(1):549-54.
246	Sekimoto T	消化器内科	Potential stagnation in the splanchnic hemodynamics demonstrated by the dynamic microbubbles in chronic liver disease.	J Gastroenterol Hepatol. 2015 Jun;30(6):1001-8. doi: 10.1111/jgh.12875.
247	Suzuki E	消化器内科	Incidental tumor necrosis caused by the interventional alteration of hepatic arterial flow in patients with advanced hepatocellular carcinoma.	Clin J Gastroenterol. 2015 Feb;8(1):41-6. doi: 10.1007/s12328-014-0542-y. Epub 2014 Dec 7.
248	Fujiwara K	消化器・腎臓内科学	Fixed point observation of etiology of acute liver failure according to the novel Japanese diagnostic criteria.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015 Mar;22(3):225-9. doi: 10.1002/jbhp.178. Epub 2014 Oct 22.
249	Maruoka D	臨床試験部	Mosapride citrate increases postprandial glucagon-like peptide-1, insulin, and gene expression of sweet taste receptors.	Dig Dis Sci. 2015 Feb;60(2):345-53. doi: 10.1007/s10620-014-3271-7. Epub 2014 Jul 10.
250	Chiba T	消化器・腎臓内科学	Histone lysine methyltransferase SUV39H1 is a potent target for epigenetic therapy of hepatocellular carcinoma.	Int J Cancer. 2015 Jan 15;136(2):289-98. doi: 10.1002/ijc.28985. Epub 2014 May 30.
251	Yasui S	消化器内科	Virological efficacy of combination therapy with corticosteroid and nucleoside analogue for severe acute exacerbation of chronic hepatitis B.	J Viral Hepat. 2015 Feb;22(2):94-102. doi: 10.1111/jvh.12258. Epub 2014 Apr 21.

計 11

合計 251

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	山口洪樹	薬剤部,心臓血管外科	薬剤師と医師による定期処方協働入力の試みとその評価	日本病院薬剤師会雑誌 50(11):1303-1307, 2014
2	築地茉莉子	薬剤部	散液調剤における乳糖賦形量の減量とその評価	千葉医学雑誌 90(6):205-210, 2014
3	内田雅士	薬剤部	選択的AT1受容体ブロッカー バルサルタンでの天疱瘡・類天疱瘡の副作用についての添付文書の改訂	日薬医薬品情報 17(11):17-20, 2014
4	内田雅士	薬剤部	経口黄体ホルモン・卵胞ホルモン混合月経困難症治療剤 ドロスピレン・エチニルエストラジオールベータデクスの血栓症の副作用についての添	日薬医薬品情報 17(12):25-31, 2014
5	山口洪樹	薬剤部	眼科クリニカルバスにおける点眼剤の手法の評価	薬局 65(5):146-149, 2014
6	柴田みづほ	薬剤部	周術期患者への薬学的介入-シームレスな関わりを目指す！ 薬学的管理のポイント 術中	月刊薬事 57(1):35-41, 2015
7	Hanaoka T	食道・胃腸外科/先端応用外科学	A Case of G-CSF-Producing Histiocytic Sarcoma of the Stomach.	Int Surg. 2015 Mar;100(3):568-73.
8	Nakano A	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Giant esophageal gastrointestinal stromal tumor: report of a case.	Surg Today. 2015 Feb;45(2):247-52.
9	河野 世章	食道・胃腸外科/先端応用外科学	食道表在癌におけるFDG-PETの有用性	癌と化学療法(0385-0684)41巻12号 Page2369-2371(2014.11)
10	蔵田 能裕	食道・胃腸外科/先端応用外科学	緊急TAEを施行した出血性十二指腸潰瘍の2例	日本腹部救急医学会雑誌(1340-2242)35巻3号 Page331-334(2015.03)
11	蔵田 能裕	食道・胃腸外科/先端応用外科学	粘液嚢胞腺癌を伴った仙骨前面嚢胞性腫瘍の1例	日本消化器外科学会雑誌(0386-9768)48巻2号 Page132-137(2015.02)
12	磯崎 哲朗	食道・胃腸外科/先端応用外科学	肺癌小腸転移による腸重積症の1例	日本腹部救急医学会雑誌(1340-2242)34巻8号 Page1509-1512(2014.12)
13	荒澤 孝裕	食道・胃腸外科/先端応用外科学	緊急ドレナージ手術が有効であった十二指腸憩室穿孔の1例	日本腹部救急医学会雑誌(1340-2242)34巻8号 Page1471-1474(2014.12)
14	渡邊 裕樹	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Crohn病との鑑別が困難であった腸管子宮内膜症の1例	日本腹部救急医学会雑誌(1340-2242)34巻7号 Page1409-1412(2014.11)
15	河野 世章	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【内科医に求められる他科の知識 専門家が伝えるDo-Don't】(第1章)外科 消化器外科 食道がん	内科(0022-1961)114巻6号 Page956-958(2014.12)
16	宮内 英聡	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【消化器外科手術ビッドフォーオールとリカバリーショット】術中偶発症に対する危機管理の基本	外科(0016-593X)76巻12号 Page1327-1330(2014.11)
17	村上 健太郎	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【外科領域のpros and cons】食道癌 術前化学放射線療法	外科(0016-593X)76巻13号 Page1559-1564(2014.12)
18	阿久津 泰典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【ERAS時代の周術期管理マニュアル】術式別の術前・術中・術後管理 食道 胸部食道癌	臨床外科(0386-9857)69巻11号 Page91-94(2014.10)
19	松原 久裕	食道・胃腸外科/先端応用外科学	1枚のシェーマ da Vinciによる食道アカラシア手術	胸部外科(0021-5252)67巻12号 Page1074(2014.11)
20	阿久津 泰典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Upper G.I.Cancer 食道・胃癌 切除可能食道癌に対する術前・術後補助化学療法	癌と化学療法(0385-0684)41巻9号 Page1087-1090(2014.09)
21	澤田 尚人	食道・胃腸外科/先端応用外科学	AFP産生胃管癌の1例	日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)75巻6号 Page1573-1576(2014.06)
22	松原 久裕	食道・胃腸外科/先端応用外科学	医療事故調査制度への取り組みと今後	日本外科学会雑誌(0301-4894)115巻4号 Page177-179(2014.07)
23	高橋 理彦	食道・胃腸外科/先端応用外科学	骨・軟骨化生を伴った乳癌の1例	乳癌の臨床(0911-2251)29巻3号 Page287-293(2014.06)
24	村上 健太郎	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【「キャッチフレーズ+図解」でさくさくわかる!消化器外科看護のための解剖生理・機能解剖】食道 食道のはたらきは?	消化器外科Nursing(1341-7819)19巻7号 Page672-675(2014.07)
25	村上 健太郎	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【「キャッチフレーズ+図解」でさくさくわかる!消化器外科看護のための解剖生理・機能解剖】食道 食道の解剖は?	消化器外科Nursing(1341-7819)19巻7号 Page666-671(2014.07)
26	豊住 武司	食道・胃腸外科/先端応用外科学	術前術後補助化学療法により長期生存を得た食道内分沁細胞癌および低分化食道扁平上皮癌混合型癌の1例	日本消化器外科学会雑誌(0386-9768)47巻5号 Page259-267(2014.05)
27	阿久津 泰典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【食道癌:疫学から治療まで】重粒子線治療	Pharma Medica(0289-5803)32巻7号 Page47-50(2014.07)
28	阿久津 泰典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	【手術記録の書き方】食道の手術 食道癌/下部食道癌の手術 開胸開腹連続切開法	消化器外科(0387-2645)37巻5号 Page546-549(2014.04)
29	松原 久裕	食道・胃腸外科/先端応用外科学	「Metabolic Surgeryと肥満2型糖尿病治療 -Bedside to Bench-」	肥満症治療学展4 Page2 (2014.09)
30	渡邊裕樹	食道・胃腸外科/先端応用外科学	第829回外科集談会 食道扁平上皮癌内視鏡的治療後Barrett食道の一例	日本臨床外科学会雑誌75巻10号Page270 (2014.10)
31	豊住武司	食道・胃腸外科/先端応用外科学	第829回外科集談会 上行結腸直接浸潤を伴う虫垂癌の一例	日本臨床外科学会雑誌75巻10号Page276 (2014.10)
32	成島一夫	食道・胃腸外科/先端応用外科学	Morgagni孔ヘルニアの一手術例	日本臨床外科学会雑誌75巻12号Page3390 (2014.12)
33	川平洋	食道・胃腸外科/先端応用外科学	鏡視下手術トレーニングに有用な携行型トレーニングボックスの開発	日本臨床外科学会雑誌75巻12号Page3390 (2014.12)
34	阿久津泰典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	食道疾患に対するロボット支援手術の導入に向けて	日本臨床外科学会雑誌75巻12号Page3391 (2014.12)
35	阿久津泰典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	IVこれだけは知っておきたい!非心臓外科手術の基礎知識 食道癌	循環器内科医のための非心臓手術必須知識Page116-122 (2014年12月25日刊行)
36	成島一夫	食道・胃腸外科/先端応用外科学	進行下部直腸癌における術前化学放射線療法の有効性と至適術式の検討	日本大腸肛門病学会雑誌68号2巻Page119 (2015.02)
37	西森孝典	食道・胃腸外科/先端応用外科学	当科における大腸内分沁腫瘍の検討	日本大腸肛門病学会雑誌68号2巻Page142 (2015.02)
38	川平洋	食道・胃腸外科/先端応用外科学	胃体部でのLECS(外科)	イラストと写真でみる内視鏡医と外科医のコラボレーション手術Page36-44(2015年3月27日刊行)
39	磯崎 哲朗	食道・胃腸外科/先端応用外科学/放射線医学総合研究所	食道悪性色素腫術後再発に対して重粒子線治療を施行した1例	癌と化学療法(0385-0684)41巻12号 Page2387-2389(2014.11)
40	中野 明	食道・胃腸外科/先端応用外科学/熊谷総合病院	S-1/CCDF術前化学療法にて組織学的CRが得られた進行胃癌の1例	癌と化学療法(0385-0684)41巻5号 Page641-643(2014.05)
41	會田直弘	食道・胃腸外科/先端応用外科学/藤田保健衛生大学臓器移植科	手術により神経症状が著明に改善した副甲状腺癌の1例	日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌(2186-9545)32巻1号 Page57-62(2015.03)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反ポリシー、利益相反マネジメント規程	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究系統講義 入門・応用（倫理規範・海外の法令・国際ガイドラインについて、臨床試験の倫理及び利益相反） ・ 千葉大学医学部附属病院が実施した臨床研究「VART study」に関する事案と現状とその対策について（緊急セミナー 5回）	



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
<ul style="list-style-type: none"><li>● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の学会認定専門医を取得する</li><li>● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの学会認定専門医を取得できるプログラム</li><li>● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム</li></ul>
(研修期間)
<ul style="list-style-type: none"><li>● 研修期間は3～5年（卒後研修：2年を含まない）原則として各専門領域の学会専門医取得に定められた期間</li></ul>
(到達目標)
<ul style="list-style-type: none"><li>● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける</li><li>● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る</li><li>● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る</li><li>● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る</li><li>● 医師としてのプロフェッショナリズムを身につける</li><li>● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る</li><li>● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る</li><li>● 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る</li></ul>

2 研修の実績

研修医の人数	85	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
横須賀 收	消化器内科	科長 (教授)	38年	
中世古 知昭	血液内科	科長 (診療教授)	25年	
小川 真	腎臓内科	科長 (診療教授)	31年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長 (教授)	25年	
横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長 (教授)	25年	
小林 欣夫	循環器内科	科長 (教授)	25年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長 (教授)	25年	
巽 浩一郎	呼吸器内科	科長 (教授)	34年	
桑原 聡	神経内科	科長 (教授)	29年	
生坂 政臣	総合診療部	部長 (教授)	28年	
並木 隆雄	和漢診療科	科長 (診療教授)	28年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長 (教授)	27年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長 (教授)	29年	
宮崎 勝	肝胆膵外科	科長 (教授)	38年	
長嶋 健	乳腺・甲状腺外科	科長 (准教授)	25年	
吉野 一郎	呼吸器外科	科長 (教授)	26年	

吉田 英生	小児外科	科長 (教授)	35年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長 (教授)	30年	
磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和 医療科	科長 (教授)	29年	
市川 智彦	泌尿器科	科長 (教授)	26年	
高橋 和久	整形外科	科長 (教授)	37年	
山本 修一	眼科	科長 (教授)	30年	
松江 弘之	皮膚科	科長 (教授)	26年	
岡本 美孝	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	科長 (教授)	34年	
佐藤 兼重	形成・美容外科	科長 (教授)	37年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長 (教授)	29年	
佐伯 直勝	脳神経外科	科長 (教授)	38年	
生水 真紀夫	婦人科・周産期母 性科	科長 (教授)	32年	
下条 直樹	小児科	科長 (教授)	34年	
宇野 隆	放射線科	科長 (教授)	25年	
織田 成人	救急科・集中治療 部	科長 (教授)	35年	
織田 成人	人工腎臓部	部長 (教授)	35年	
村田 淳	リハビリテーシ ョン部	部長 (診療教授)	27年	
伊豫 雅臣	こどものこころ 診療部	部長 (教授)	29年	
野村 文夫	検査部	部長 (教授)	38年	
中谷 行雄	病理部	部長 (教授)	35年	
横須賀 収	光学医療診療部	部長 (教授)	38年	
猪狩 英俊	感染症管理治療 部	部長 (診療教授)	25年	
丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外 科	科長 (教授)	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【病棟患者急変対応セミナー】

- ・研修の主な内容  
医師1～2名（例：指導医、研修医）、看護師2～3名（例：熟練、中堅、新人看護師）、他職種でチームを形成し、1～2チームがあらかじめ作成したシナリオ（1～2種類※）にもとづいてシミュレーション実習を行う。シミュレーターはSimMan 3G、SimBaby、HPSを用いる。シナリオ内容は作成者およびセミナー管理者にのみ知らされ、実習参加者はシナリオの内容を知らずに急変対応を行っていく。実習の様子はビデオモニターで撮影・記録され、上記チーム以外の参加者はその映像をリアルタイムで観察する。実習終了後、記録ビデオを参考しながら、全参加者でデブリーフィング(振り返り)を行う。
- ・研修の期間・実施回数  
4回/年
- ・研修の参加人数  
30～40名/回

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容 「入職者研修」
- ・病院、看護部の理念・当院に求められる看護師の役割（業務分掌）
- ・看護部の方針と看護部組織
- ・看護方式と受け持ち看護師の役割
- ・目標管理
- ・看護部を取り巻く状況の変化
- ・看護業務、体制
- ・労務管理
- ・研修の期間・実施回数 平成26年4月2日・1回 ・研修の参加人 142名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容 「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した

単位型研修会

- ・ 研修の期間・実施回数 2日間・2回
- ・ 研修の参加人数 44名 平成27年8月1日(土)  
47名 平成27年8月2日(日)  
50名 ※

※平成27年12月12日(土)、12月13日(日)開催予定

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 山本 修一
管理担当者氏名	企画情報部長 山本 修一 医療安全管理部長 相馬 孝博 ME機器管理センター長 織田 成人 医事課長 小川 明宏 薬剤部長 石井 伊都子 感染症管理治療部長 猪狩 英俊 総務課長 星 幹崇 医療サービス課長 田辺 朗

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課 各診療科 企画情報部 薬剤部 医療サービス課 (診療情報管理係)	診療録は、入院・外来別に一患者一ファイル方式により管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医事課及び医療サービス課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課及び医療サービス課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部及び医療サービス課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部及び医療サービス課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部及び医療サービス課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部及び医療サービス課
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部及び医療サービス課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染症管理治療部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部及び医療サービス課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部及び医療サービス課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	感染症管理治療部及び医療サービス課
	第一条の十一	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染症管理治療部及び医療サービス課
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染症管理治療部及び医療サービス課
	第一項各号及び第九條の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染症管理治療部及び医療サービス課
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部及び薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部及び薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部及び薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部及び薬剤部
	第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部及びME機器管理センター
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部及びME機器管理センター
	第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部及びME機器管理センター
第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部及びME機器管理センター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 山本 修一	
閲覧担当者氏名	総務課長 星 幹崇                      管理課長 桐島 孝 経営企画課長 山崎 正人              医事課長 小川 明宏 医療サービス課長 田辺 朗	
閲覧の求めに応じる場所	会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧を求める者は、国立大学法人千葉大学法人文書管理規則に基づき企画総務部総務課に閲覧申請を行い、その許可が得られた場合、閲覧担当者が附属病院会議室において求めに応じる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 当院における安全管理に関する基本方針の考え方 医療の質・安全管理委員会その他の当院の組織に関する基本的事項 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 当院における事故報告等からの改善のための方策に関する基本方針 院内及び院外への情報共有に関する基本方針 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 医療安全に係るマニュアルの作成及び周知に関する基本方針 関連委員会との連携に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 患者に対する基本方針の閲覧に関する基本方針 患者からの相談への対応に関する基本方針 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 1 回
<p>・ 活動の主な内容： 安全管理体制の整備、安全管理のためのマニュアル整備 インシデントからの改善のための方策の検討 医療安全に関する教育及び職員研修の実施 院内における医療安全への取組みへの啓蒙</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容： 医療事故防止セミナー（3 回） 急変対応セミナー（4 回） ベストプラクティス発表会</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： インシデント事例に基づき、改善状況を院内ラウンドにて確認している。 各部署での医療安全対策についての取組みを「ベストプラクティス」として募集し、優秀な取組みに対して表彰を行っている。 部署へ出向き、インシデント分析の指導・研修を行っている。 看護補助者を対象に「危険予知トレーニング」看護師対象に「POAM分析」などの研修を実施している。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（3 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1 2 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専任（3）名 兼任（19）名 ・ 活動の主な内容： 医療上の事故に関する診療録及び看護記録等の記載内容の確認及び指導 医療上の事故及びインシデントの分析及び評価 各部署の医療安全に係る対策の実施状況の評価及び当該評価に基づく改善策の策定 改善策の実施状況の確認及び評価 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営 医療の質・安全管理委員会において立案された医療事故防止対策の実施状況の調査及び見直し 医療安全に係る取組及び評価等を行うカンファレンスの実施 医療の質・安全管理委員会への医療安全に係る情報提供及び当該委員会との連携 医療上の事故発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導 診療経過審議委員会及び医療事故調査委員会において立案された改善策の実施状況の調査及び見直し その他医療安全の推進に関すること</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無



(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する基本的考え方 病院感染対策のための委員会 に関する基本的事項 病院感染対策のための従業者に対する研修に関する基本指針 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他の当該病院等における院内感染対策推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病原菌報告 (MRSA、緑膿菌、クロストリジウム・ディフィシルの分離状況と対策) について 職業感染対策 (針刺し・切創、血液・体液曝露報告、職員ワクチン接種プログラム等) について 多剤耐性菌・病原体別対策 (個別事例に対する対策等) について インフルエンザ対策 (予防接種、流行期の患者・職員の対応等) について 院内感染対策の指針、院内感染予防対策マニュアル等の改訂について 院内感染予防対策に関する研修について 内視鏡洗浄・履歴管理の一元化について その他感染に関する事項の検討、決定</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 結核とどう向き合うか～他施設の事例から学ぶ～ 2. 患者と職員のインフルエンザワクチン接種について/患者に対する肺炎球菌ワクチン接種について/改正感染症法の届出疾患について 3. エボラ出血熱と感染対策～患者スクリーニングと搬送～</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1. ICTラウンド (週1回) と報告</p> <p>1) 診療コンサルテーション報告 2) 分離菌報告 3) 特定薬剤使用状況報告、</p> <p>2. ICN・事務職員・清掃業者による環境清掃ラウンド (月2回) と報告</p> <p>3. MRSA・緑膿菌を対象としたICT月間ラウンド (月1回) と報告</p> <p>4. 職業感染対策</p> <p>1) 針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施 2) 職員の抗体検査と予防接種の実施</p> <p>5. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック</p> <p>1) カテーテル関連血流感染 (血液内科、小児科・小児外科)、 2) 手術部位感染 (肝胆膵外科、食道胃腸外科)</p> <p>6. 病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種</p> <p>7. 感染防止対策の地域連携に関する活動</p> <p>1) 相互チェック 2) カンファレンス</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 注射薬について ー注射薬の特徴と取り扱い上の注意点ー（兼：看護部新採用者早期研修） 抗がん薬の取扱いについて（兼：研修医ガイダンス） 抗がん剤曝露とその対策（兼：医療事故防止セミナー） 転倒転落に影響する薬剤とその対策（兼：医療事故防止セミナー）</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 （有・無）</li><li>業務の主な内容： 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施 医薬品の購入および麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、嚴重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施 患者に対する安全な医薬品供給のための調剤、交付、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施 医薬品情報の収集および提供の実施 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品安全管理に係る内容の見直し、および医薬品安全管理のための業務手順書の順次改訂と院内への周知徹底 医薬品安全使用のための情報提供方法の工夫（薬事委員宛、各診療科・部門へのメールによる通知、ホームページへの掲載、使用診療科・患者を特定し個別に情報提供、処方入力時の注意喚起メッセージ表示、オーダーリングシステムからも参照可能なイントラネットを利用した情報提供、病棟に出向いての新規薬剤取扱い上の注意点の説明） 厚労省、PMDA、製薬会社、学会などの各種団体等からの医薬品安全に関する情報収集およびその周知の実施 院内のインシデント事例を基にした注意喚起</li></ul>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 17 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 人工呼吸器・輸液・シリンジポンプ・閉鎖式保育器・血液浄化装置・人工心肺及び補助循環装置・除細動器等、年13回 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）の安全講習会（年2回） 診療用放射線照射装置（アフターローディング）の安全講習会（年2回）</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の策定（有・無）</li><li>保守点検の主な内容：  診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）、診療用放射線照射装置（アフターローディング）、生命維持管理装置（人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・徐細動器・閉鎖式保育器）  当院で定めた機器（CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ等）</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備（有・無）</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：  機器管理を主たる業務とする臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。 また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。</li></ul>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期  (財) 日本医療機能評価機構、平成24年4月23日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 病院のホームページ、広報紙及びパンフレット等において、特定機能病院としての機能を説明するとともに、各診療科の診療実績を公表する等、地域に向けた情報発信を積極的に行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	